

YANMAR

ドッキングローダ

取扱説明書

YLLEG105MC

YLLEG105PC

文書コードNo. : B 8 1 2 3 9 0 4 0 - 1

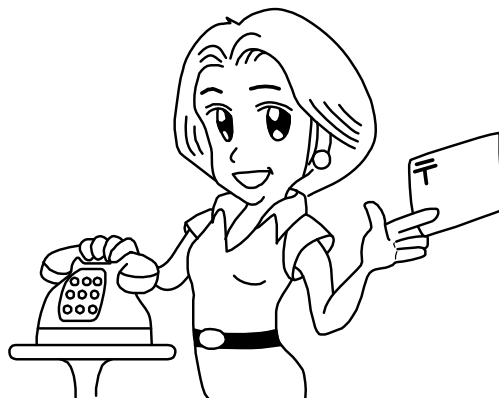
 **ご使用前に必ずお読みください。**
いつまでも大切に保管してください。

ヤンマーアグリ株式会社

このたびは弊社製品を お買い上げいただきありがとうございます。

はじめに

- この取扱説明書は本製品の正しい取扱方法と簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みいただき十分理解され、本製品を最良の状態で正しく安全に使用するためにご活用ください。
- お読みになったあとも、この取扱説明書を必ず大切に保存し、分からない場合は理解されるまで十分お読みください。
- 本製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡してください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかに当社または当社の営業所・特販店・農協（ＪＡ）にご注文ください。
- なお、品質・性能向上などの理由で、使用部品の変更を行なうことがあります。その際には、本書の内容および写真イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、ご了承ください。
- ご不明なことやお気付のことがございましたら、お買い上げ店か、お近くの特販店・農協（ＪＡ）またはサービス工場にご相談ください。
- 下記マークが付いた項目は、安全上特に重要な項目ですので必ずお守りください。



危険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。



警告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。



注意

その警告に従わなかった場合、けがを負うおそれのあるものを示します。

取扱注意

その警告に従わなかった場合、製品の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補 足

その他、使用上役立つ補足説明を示します。

目 次

安全に作業をするために	2
安全表示ラベルとその取扱いについて	18
本製品の使用目的について	21
補修用部品の供給年限について	21
アフターサービスについて	21
各部のなまえ	22
各部のはたらき	24
着脱のしかた	41
アタッチメントの取付け・取りはずし	45
アタッチメントの紹介	47
ローダ作業のしかた	48
平行リンク付ローダの作業上の注意	49
保守点検一覧表	50
適正締付トルク表	52
トラブルシューティング	53
労働安全衛生規則の抜粋	61



安全に作業をするために

必ず読んでください

- ロードを安全に使用していただくために、ここに記載されている注意項目を必ず守ってください。
- 下記の注意項目を守らないと、死亡を含む傷害や事故、製品の破損が生じるおそれがあります。
- 道路走行・駐車・日常点検及び運転については、トラクターの「取扱説明書」に記載された注意項目も必ず守ってください。

一般的な注意



警告

ロードを使用する前には必ず本書とすべての安全指示をよく読んで、理解した上で使用する

【守らないと】

死亡事故や重大な傷害、ロードやトラクターの破損につながるおそれがあります。



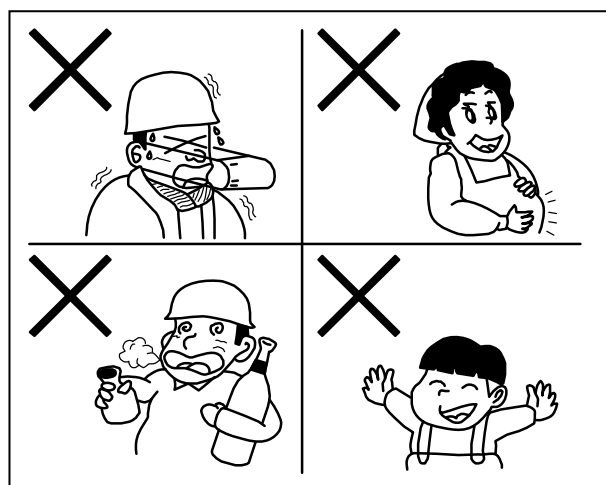
警告

こんなときは運転しない

- 過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき。
- 酒を飲んだとき。
- 妊娠しているとき。
- 未成年者又は未熟練者。

【守らないと】

死傷事故につながるおそれがあります。



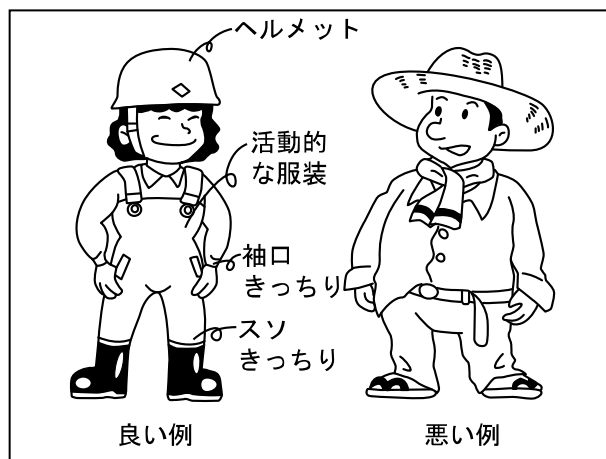
警告

作業に適した服装をする

はち巻き・首巻き・腰タオルは禁止です。ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、作業に適した防護具などを付け、だぶつきのない服装をしてください。

【守らないと】

滑って転倒したり、製品の回転部に巻き込まれて死傷するおそれがあります。



必ず読んでください

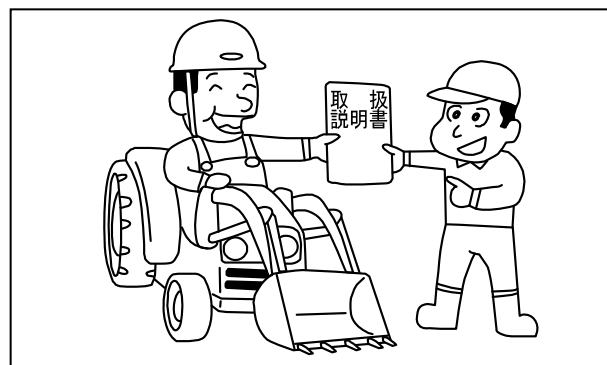


ローダを他人に貸すときは取扱方法を説明する

取扱方法をよく説明し、使用前に本書を必ず読むように指導してください。

【守らないと】

死傷事故となるおそれがあります。

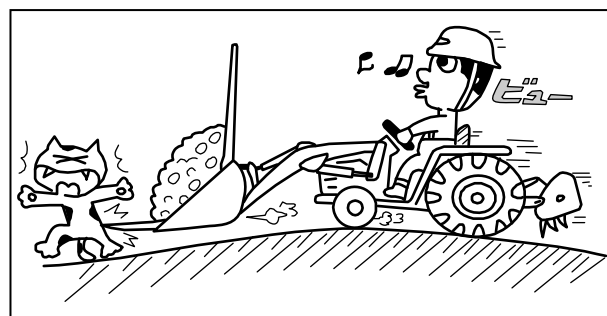


ローダの改造禁止

- 純正部品や指定以外のアタッチメントを取り付けしないでください。
- 改造をしないでください。
- 適用トラクター以外のトラクターにローダを装着しないでください。

【守らないと】

傷害事故や、ローダ・アタッチメントの破損につながるおそれがあります



ローダ作業する前に

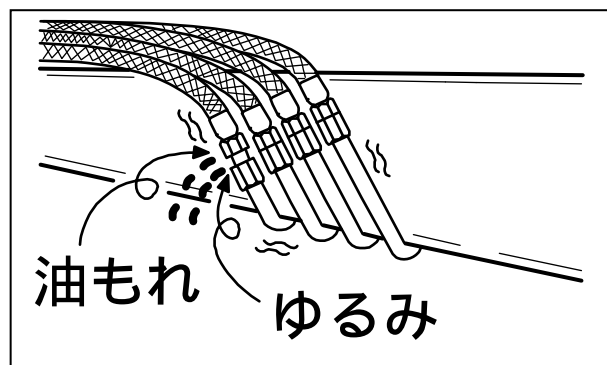


ローダを操作する前に、油圧配管のネジ部をしっかりと締める

安全のため、油圧ホースは2年毎に交換してください。

【守らないと】

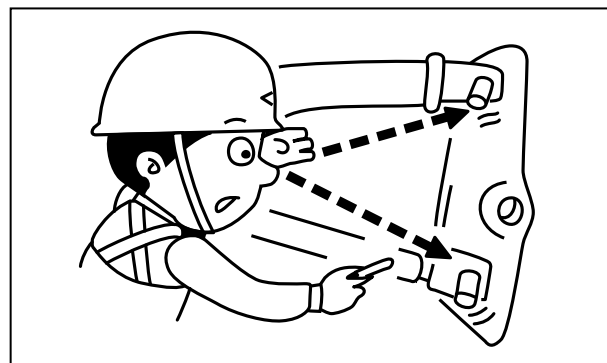
継手やホースがはずれたり抜けたりしてアームが急下降し、死亡事故になるおそれがあります。



- 各部のボルト・ナットなどのゆるみや、ピンの脱落がないか確認する。
- 回動部にグリスアップする。
- その他、破損箇所（材料・溶接割れなど）がないか確認する。

【守らないと】

傷害事故や、ローダの故障・破損につながるおそれがあります。



必ず読んでください

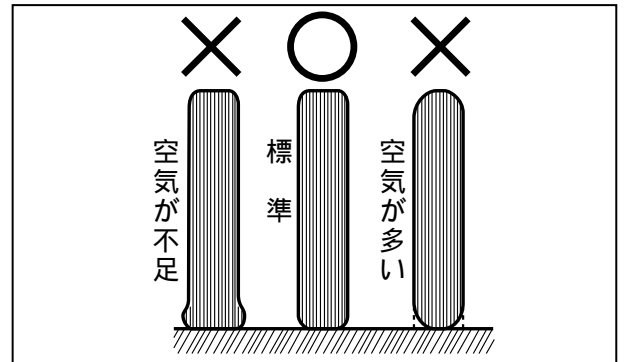
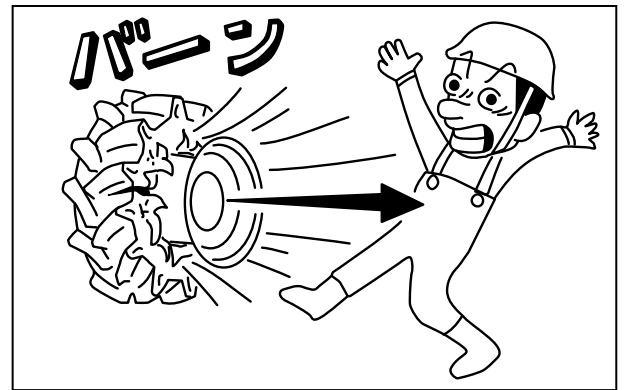
警告

タイヤの空気圧は、トラクターの取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守る

- タイヤに傷があり、その傷がコード（糸）に達している場合は、使用しないでください。
- タイヤ・チューブ・リム等の交換・修理は必ず購入先にご相談ください。
（特別教育を受けた人が行うように、法で決められています）
- 前輪・後輪の空気圧が適正であることを調べてください。

【守らないと】

空気の入れ過ぎ等でタイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引き起こす原因になります。



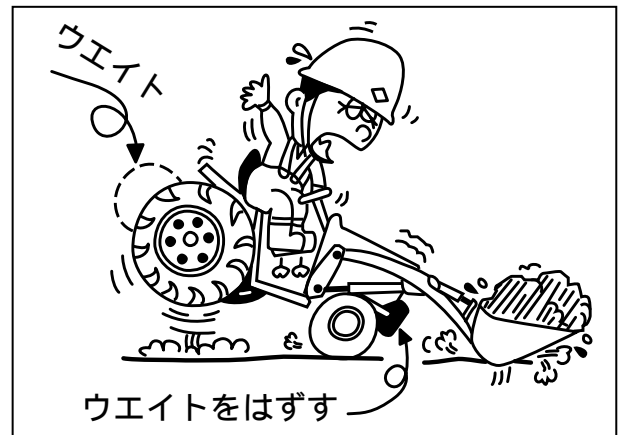
注意

トラクター後部にウエイトを取付ける

- 前部ウエイト・前輪ウエイトは、取りはずしてください。
- 適正重量を越える後部ウエイトをつけないでください。
- 適正後部ウエイト重量は「純正部品表」を参照してください。

【守らないと】

バランスが悪くなり、傷害事故となるおそれがあります。



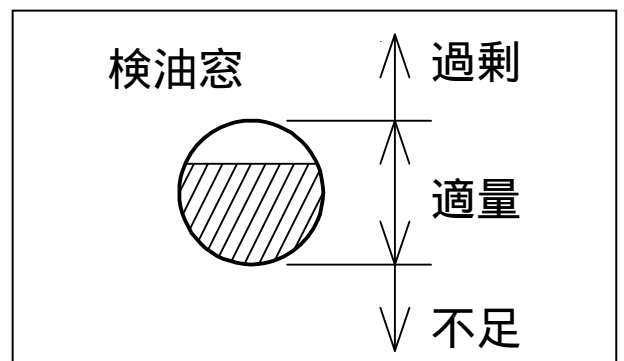
取扱注意

作動油を追加する

トラクターに準じた作動油を追加してください。追加量は別書「組付要領」を参照してください。

【守らないと】

ローダが動かず、トラクターポンプが故障するおそれがあります。

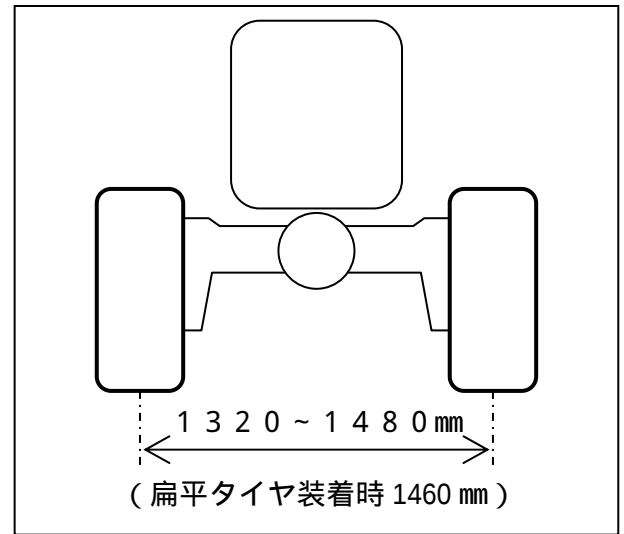


必ず読んでください

取扱注意

ローダ作業を行う場合、前輪トレッド幅は下記寸法に調整してください

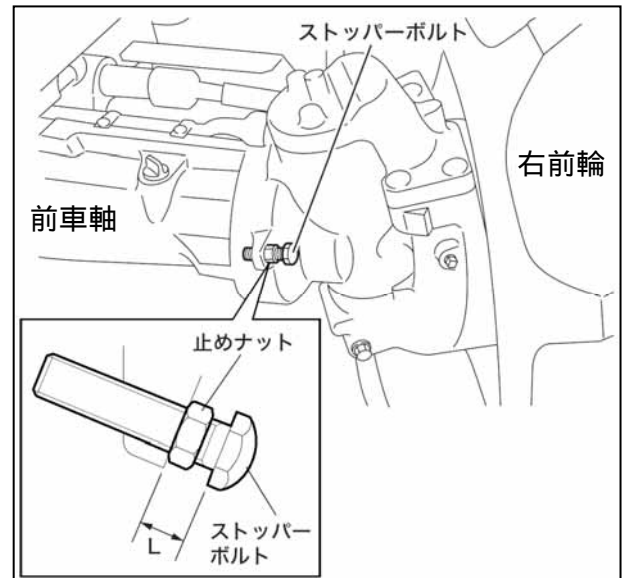
- 標準タイヤ : 1320 ~ 1480 mm
- 扁平タイヤ (320/70 R 24) : 1460 mm (標準)



取扱注意

干渉なきよう、前輪切れ角をストッパーボルトで調整してください。

注意 前輪切れ角調整詳細についてはトラクタの取扱説明書を参照してください。



補 足

トラクタエンジン始動後 負荷をかけずにアイドリングで暖機運転をしてください
暖機運転は換気の十分な場所で行ってください

(詳細はトラクタの「取扱説明書」参照)

暖機運転を行わないとローダの動きが遅くなったり異常な動きをする場合があります、故障の原因となります。

(参考) 寒冷地の場合

気温	暖機運転時間
10 ~ 0	0 ~ 10 分間
0 ~ -10	10 ~ 20 分間
-10 ~ -20	20 ~ 30 分間
-20 以下	30 分以上

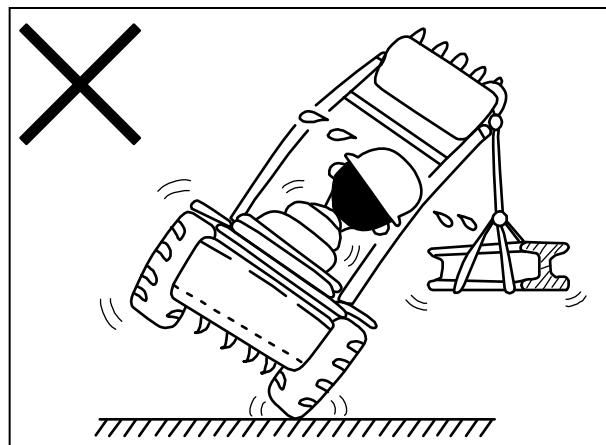
危険

片荷作業はしない

- 積荷は均等に積んでください。
- 片突込み作業はしないでください。
- 長尺物を運搬する時は、荷の端が接地しないよう、十分注意しゆっくり走行してください。

【守らないと】

ローダに無理な力がかかり、トラクターが横転して死傷するおそれがあります。



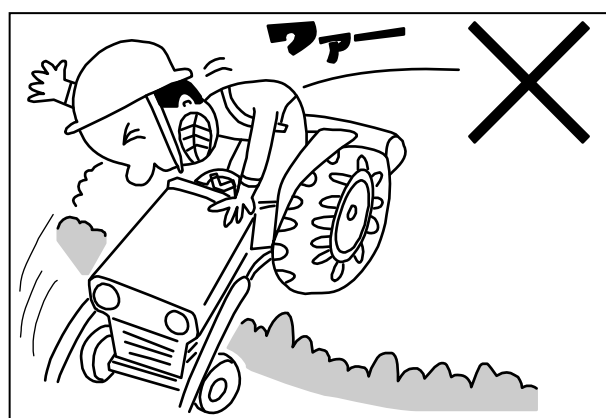
危険

斜面の傾斜に対して横方向や斜めに走行しない

ほ場の出入口や土手の上り降り、畦越えなど斜面を走行する場合は、速度を低速にしてローダ先端（アタッチメント）をできる限り低くし、傾斜方向に沿って走行してください。

【守らないと】

トラクターが横転・転落して死亡を含む重大な傷害事故になることがあります。

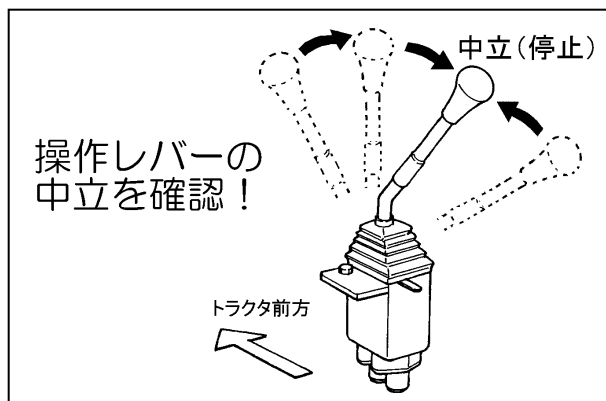


警告

トラクター始動時、操作レバーの中立を確認する

【守らないと】

ローダが急に動き出し、ローダにはさまれ死傷するおそれがあります。

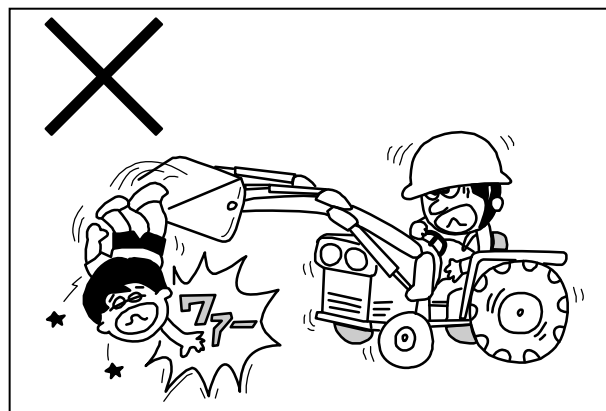


警告

ローダやアタッチメントに人を乗せない

【守らないと】

転落事故を起こして死傷するおそれがあります。



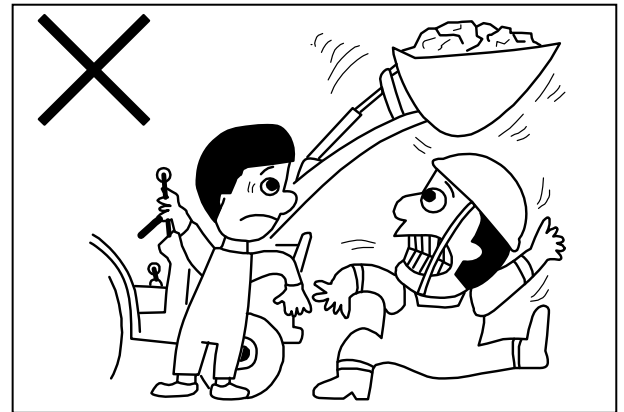
必ず読んでください

警告

- ローダの作業範囲内に入らない
- ローダの下に入らない
- 特に子供には注意し、ローダに近づけない

【守らないと】

ローダに当たったり、ローダの下敷きになって死傷するおそれがあります。



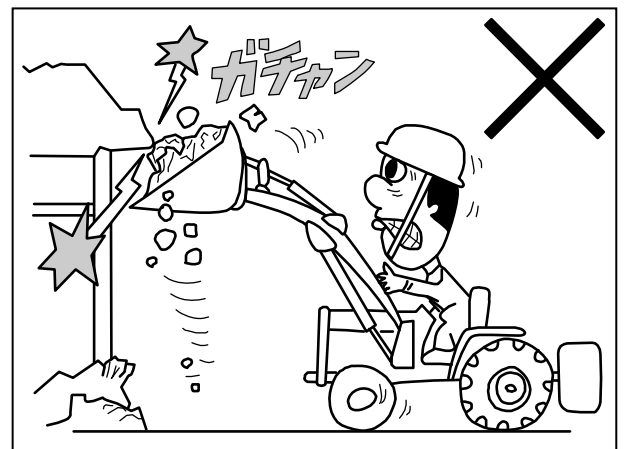
警告

周囲の障害物に近づかない

- アームを動かしたり、トラクターを方向転換させるときは、ローダが障害物に当たらないようにしてください。
- 死角となる部分にも注意してください。
- 特に電線付近での作業は、囲いを設けるなどして、感電防止をしてください。

【守らないと】

障害物をこわしたり、感電死するおそれがあります。

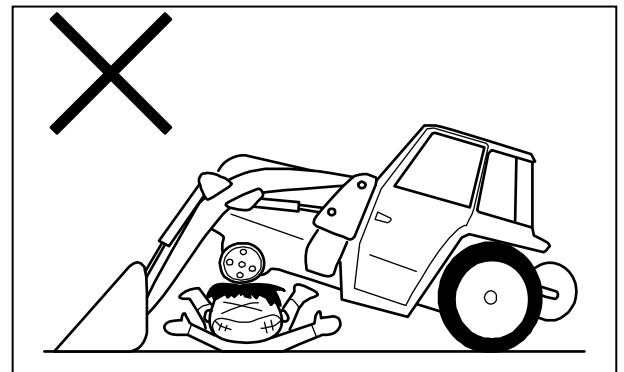


警告

ローダを使用してトラクター前輪を持上げ、タイヤ交換等の作業をしない

【守らないと】

トラクターが落下して下敷きになるなど、死亡を含む傷害事故となるおそれがあります。

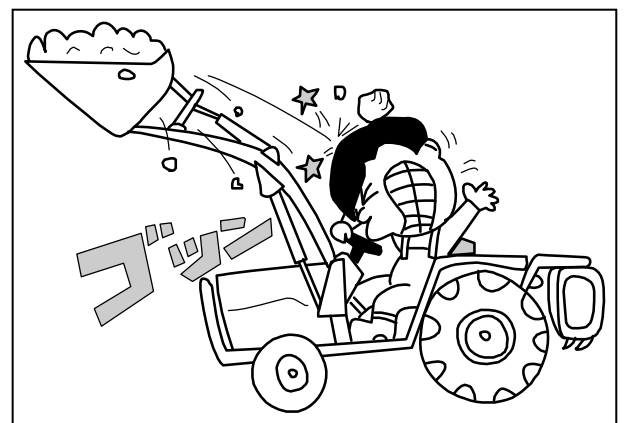


警告

ヘルメット・安全靴を必ず着用する

【守らないと】

土砂などの積荷が落ちて死傷するおそれがあります。



必ず読んでください

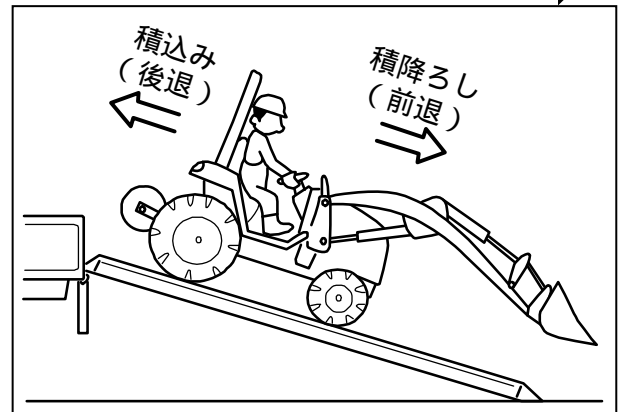


昇るときは後退、降りるときは前進で

トラックに積み込むときは後退で、降りるときは前進でおこなってください。

【守らないと】

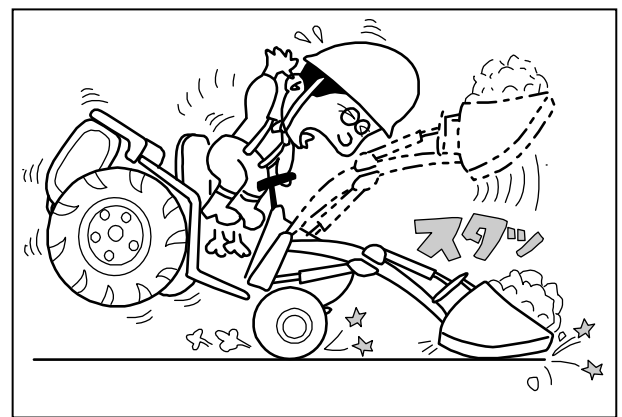
バランスをくずして、転落事故を引きおこし、死傷するおそれがあります。



アームを下降途中で急停止させたり、トラクターの急ブレーキをかけたりしない

【守らないと】

転倒事故をおこし、死傷するおそれがあります。

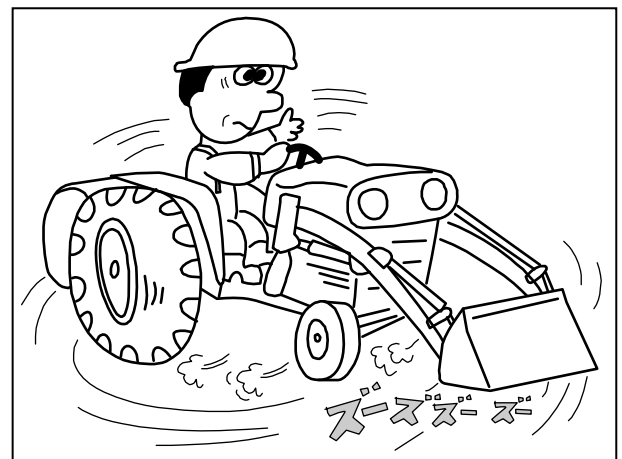


ローダを取付けたときは旋回に注意

- ローダを取付けると全長が長くなりますので、旋回時は周囲の人や物に注意してください。
- トラクター側の急旋回機能を解除してください。
- ローダ操作時は、左右のブレーキペダルを必ず連結してください。

【守らないと】

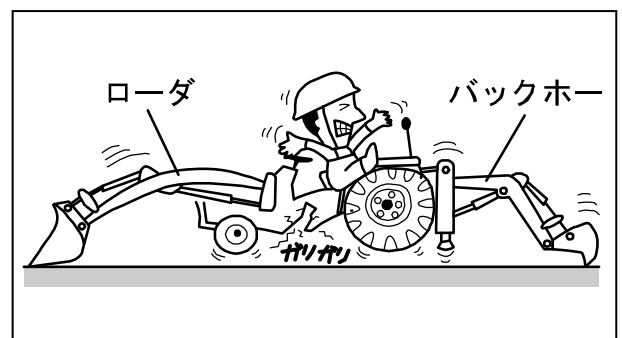
人や物に衝突したり転倒して、死亡を含む傷害事故となるおそれがあります。



ローダとバックホーをいっしょに使わない

【守らないと】

前輪・後輪とも持ち上げられトラクターが破損して死亡を含む傷害事故となるおそれがあります。



必ず読んでください



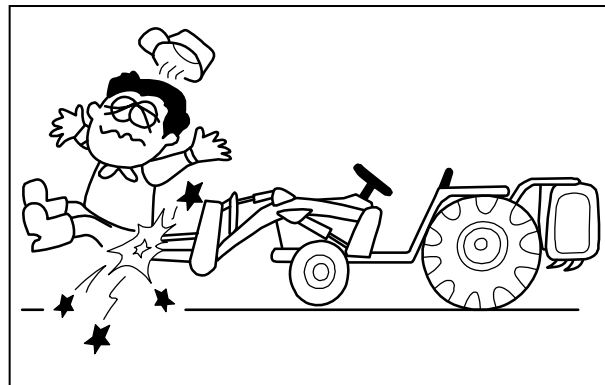
警告

トラクターを離れるときは、必ず先端アタッチメントおよびフォーク等の先端を接地させる

トラクターを離れるときは、平らな場所で先端アタッチメントおよびフォーク等の先端を接地させ、トラクターの変速レバーを「中立」にして駐車ブレーキをかけ、必ずエンジンを停止して、キーを抜いてください。

【守らないと】

ローダが落下したり、先端アタッチメントまたはフォーク等に当たり、死傷事故となるおそれがあります。



警告

高圧油に注意

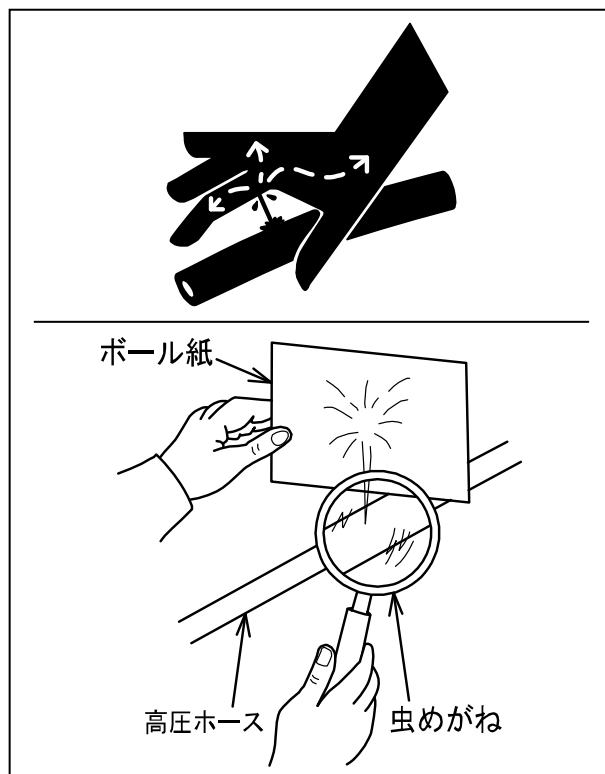
噴出する油を手足などでさわらない

作業中、ホースや油圧部品から油が噴出した場合は、すぐにエンジンを停止し、ローダを接地させ、油圧回路内の残圧を必ず抜いてください。

【守らないと】

高圧油は皮膚を突き破ることがあり、重大な傷害事故となるおそれがあります。

- 万一噴出した油が目に入ったり、皮膚に浸透した場合は水で洗浄した後、すぐに医師の処置を受けてください。
- 見えない小さな穴からの油もれを探すときは保護めがねをかけ、ボール紙などを利用してください。

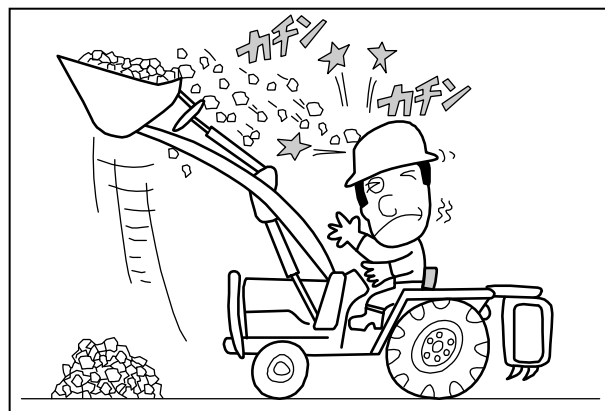


注意

積荷は必要以上に高く上げない

【守らないと】

トラクターのボンネットやオペレータに積荷がとび散り、ケガをするおそれがあります。



必ず読んでください

注意

- ロードの着脱は、先端アタッチメントを付け、硬くて平らな場所で行う
- ロードの可動部分に手足を入れない
- トラクターとロードの間に立たない

【守らないと】

やわらかい地面上や坂道では着脱が難しくなり、ロードが転倒してケガをするおそれがあります。

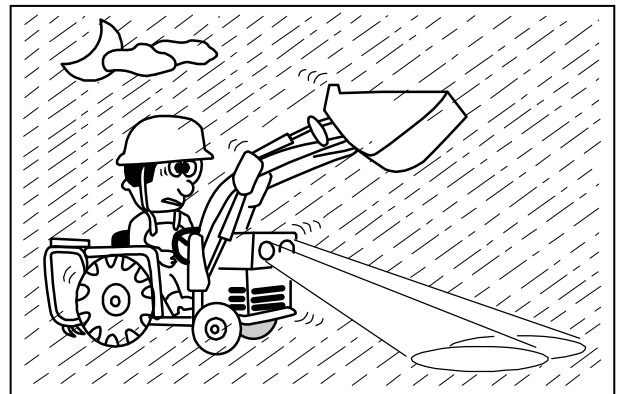
注意

夜間や暗い所ではライトをつける

周囲がよく見えない状態では作業しないでください。
必ず安全作業に必要な明るさを保ってください。

【守らないと】

傷害事故につながります。

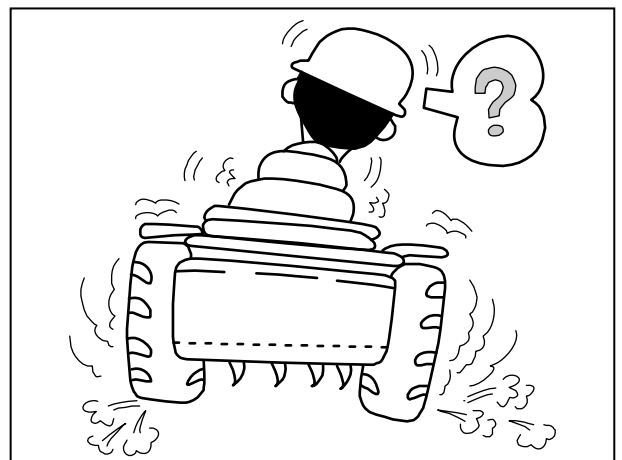


取扱注意

トラクターやロードの作動がおかしい場合は、すぐにエンジンを停止する

【守らないと】

作動がおかしいまま大丈夫だろうと過信して作業を続けていますと、故障や破損につながるおそれがあります。



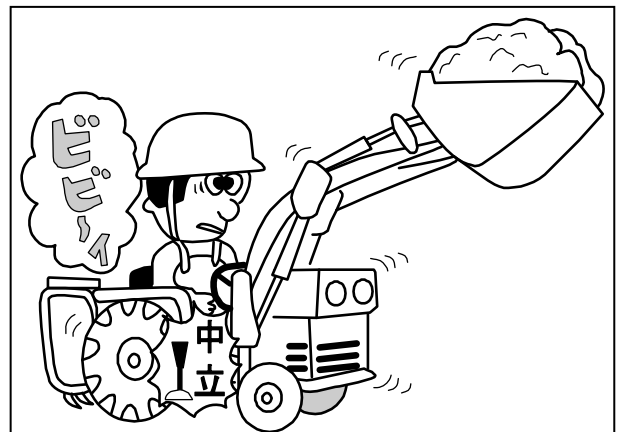
取扱注意

トラクターやロードが「ビー」と鳴るときは操作レバーを「停止」(中立)にもどす

シリンダが伸び(縮み)きった時や、荷を積み過ぎた時には、トラクターやロードのリーフ弁が働くため、「ビー」という音がします。

【守らないと】

油温が上がり、ポンプや油圧部品が故障する原因となります。



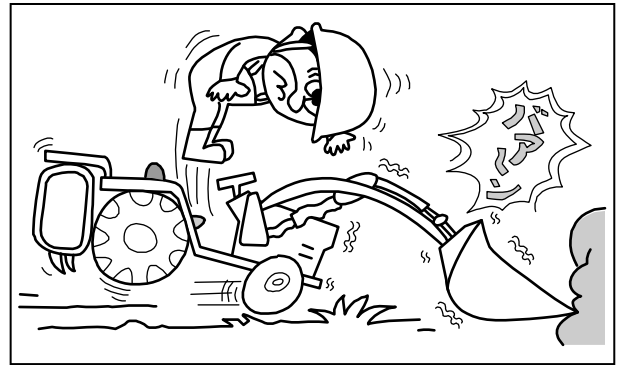
必ず読んでください

取扱注意

ローダ作業や悪路走行時の車速は 4 km/h 以下にする

【守らないと】

衝撃が大きくなり、トラクターやローダが故障・破損するおそれがあります。

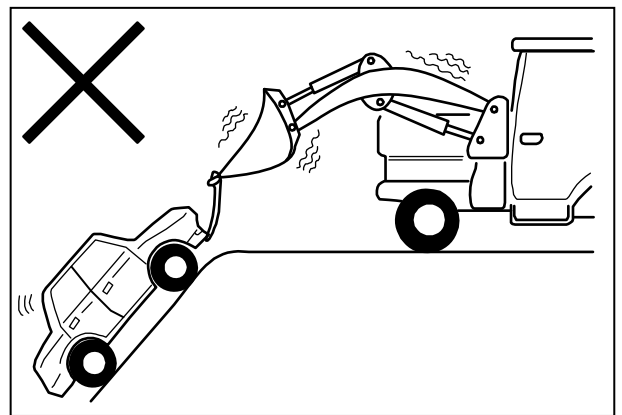


取扱注意

ローダでけん引作業をしない

【守らないと】

トラクターやローダに無理な力がかかり、故障・破損するおそれがあります。



取扱注意

アームを高く上げた状態で、突っ込み作業や物を無理に押したりしない

【守らないと】

トラクターやローダに無理な力がかかり、故障・破損するおそれがあります。

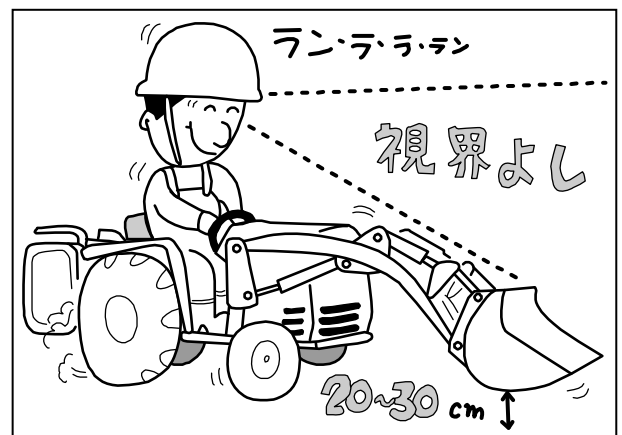
取扱注意

運転は安全運転で

- 積荷を運搬する場合は後輪トレッドを広げ、アタッチメントの下面を地面から 20～30 cm の位置まで下げ、4 km/h 以下の速度で走行してください。
- 悪路・傾斜地・不整地では特に注意し、無理な運転はしないでください。
- 不要なレバー操作はしないでください。

【守らないと】

トラクターやローダが故障したり破損するおそれがあります。



必ず読んでください

取扱注意

ローダの装着作業は、素手でホース類がさわられる程度まで油温がさがってから行う

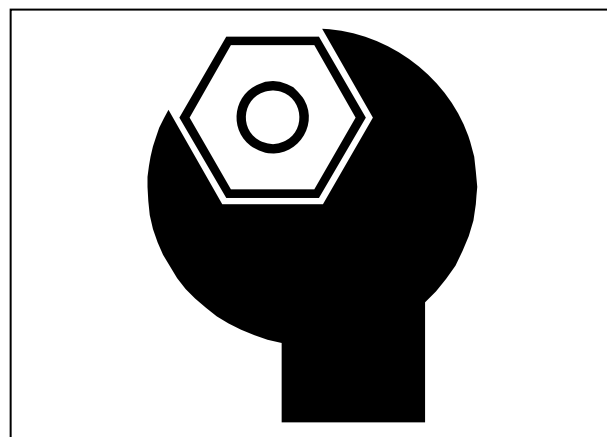
【守らないと】

トラクターでの作業（ロータリ・プラウ等）により、トラクターのミッションオイルが高温（100 以上）になる場合があります。オイルが高温の状態でローダの装着を行いますと精密部品（バルブ等）の熱膨張により、ローダの作動に変調をきたす場合があります。

取扱注意

ローダ組付け後 5 時間作業した後は、必ずすべてのネジ部を規定の締付トルクで締めつける

また、作業 50 時間ごとに規定の締付トルクで締めつけてください。
締付トルクは 52 ページを参照してください。



補 足

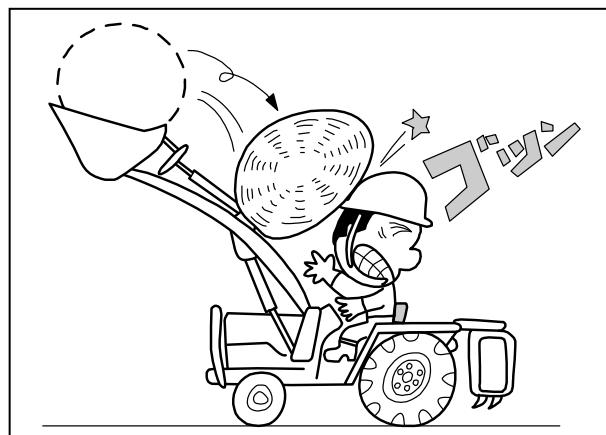
- 操作レバーがストロークエンドになっている状態で無理な力を加えないでください。
- ローダ作業時は、後部ウエイトを水平より上の位置に保持してください。
- 快適なローダ作業をするために、トラクターのバッテリーはライトなど全電装品を使用した状態でも 12 V 以上の電圧を保つようにしてください。
- 運転中に修理・調整をしないでください。
アームを接地させ、トラクターの走行用変速レバーや 1 本レバー(操作レバー)を「中立」の位置にし、必ずエンジンを止めて駐車ブレーキをかけ、残圧を抜いてから行ってください。
- 持上制限重量を越える荷の積載はしないでください。
- 橋など、走行場所の重量制限に十分注意してください。
- 誘導者と共同作業をするときは、誘導者の指示に従ってください。

警告

ローダ作業には専用アタッチメントを使用する

- 特にバケット等でロールベールの運搬・積み込み作業をしないでください。

【守らないと】
荷くずれを起こして積荷が運転席に落下し、死傷するおそれがあります。



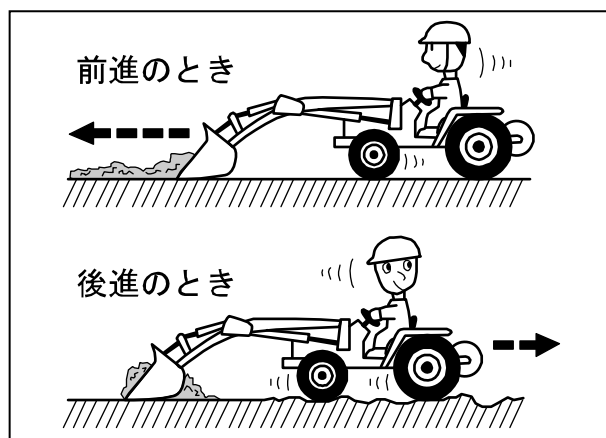
取扱注意

バケットを立てて前進排土・後進排土をしない

- 前進排土作業には「グレーダ」を使用してください。
- バケットを使用する場合は、底面を水平に接地させて作業を行ってください。

(右図)

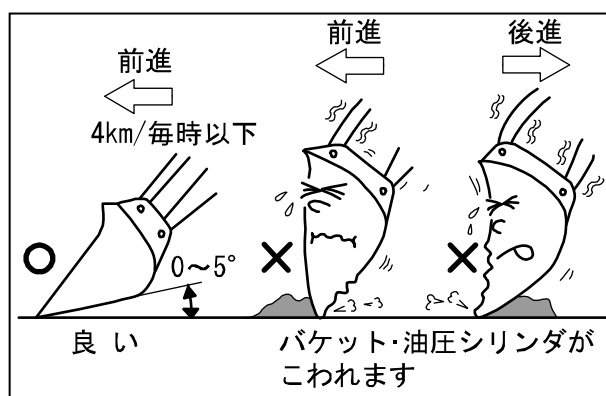
【守らないと】
ホース・ダンプシリンダやバケットなどが破損するおそれがあります。



取扱注意

バケット底面と地面のなす角度は5度以下で使う

【守らないと】
バケットやシリンダ・ホースなどに無理な力がかかり、破損するおそれがあります。



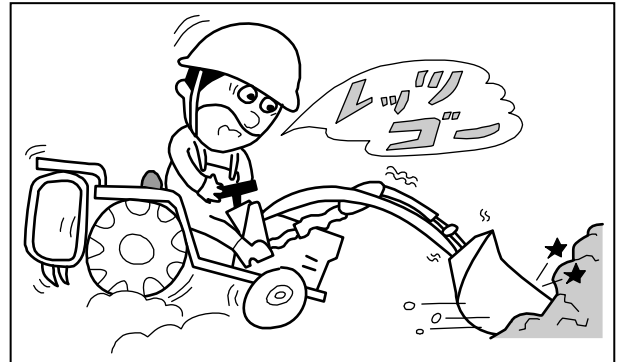
必ず読んでください

取扱注意

バケットでは硬い土の掘りおこしをしない

バケットは農用簡易土木・土砂等の運搬用として作られていますので、硬い土や岩石の掘削には使用しないでください。

【守らないと】
バケットが破損するおそれがあります。

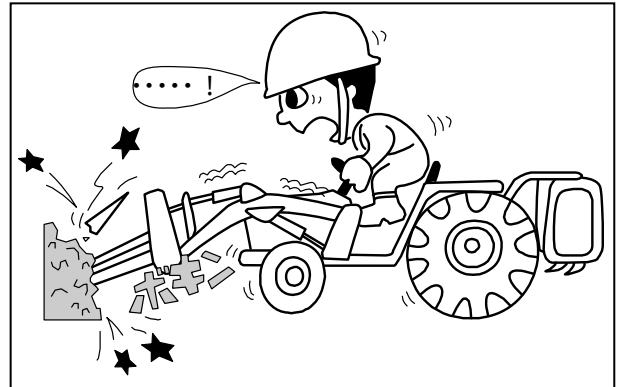


取扱注意

マニアフォークで土砂の掘りおこしをしない

土砂の掘りおこしは、爪付バケットが適しています。

【守らないと】
タイヤが曲がったり折れたりします。

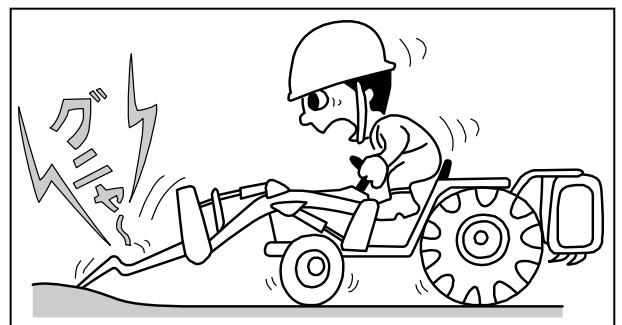


取扱注意

集積・集草作業は、操作レバーを「フローティング」にして行なう

操作方法については、26, 29～30 ページを参照してください。

【守らないと】
タイヤを曲げるおそれがあります。



必ず読んでください

補 足

- 幅の広いアタッチメントを使用しての作業は、周囲の障害物に注意してください。
- マニアフォーク等、先端が鋭利なアタッチメントを保管する場合、タイン先端にカバーを取付けてください。
- アタッチメントを保管する場合は、必ずローダからはずしてください。
- 純正アタッチメントを使いましょう。

純正アタッチメントは、お客様の「ローダ」に一番よくマッチするように設計されていますので安心して使ってください。

純正以外のアタッチメントや純正アタッチメントを改造したものを使用して事故や故障が生じた場合、保証いたしかねますので御了承ください。

一般道路走行について



注意

ローダを装着したまま公道を走行しない

公道を走行する時は、トラクターからローダを取りはずしてください。

【守らないと】

道路運送車両法に違反します。また傷害事故につながるおそれがあります。

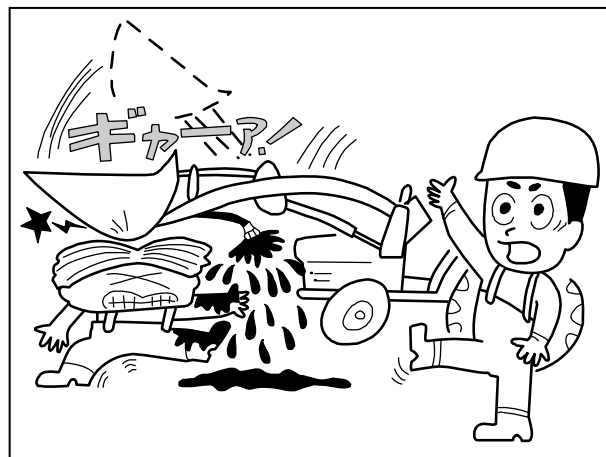


警告

修理や点検時、ローダを上げエンジンをかけた状態で、ホースや油圧配管をゆるめない

【守らないと】

ホースや油圧配管がはずれ、ローダが急降下してローダの下敷きになるなど、死亡事故となるおそれがあります。



注意

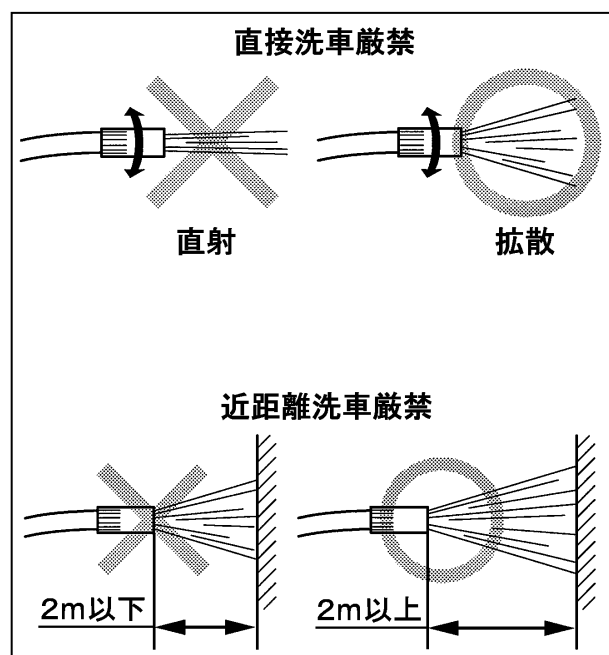
ローダ洗浄時、高圧洗浄機の洗浄ノズルは拡散にし、2 m以上離してください。

ハーネス類の接続コネクタ、油圧シリンダおよび油圧機器のシール部に直接水をかけないでください。

【守らないと】

- 電気配線被覆の損傷・断線により火災を引き起こすおそれがあります。
- 油圧ホースの破損により、高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。
- 機械の破損・損傷・故障の原因となります。

例) シール・ラベルのはがれ
電子部品への浸水による故障
オイルシール等のゴム・樹脂類の破損
塗装・メッキ面の被覆はがれ

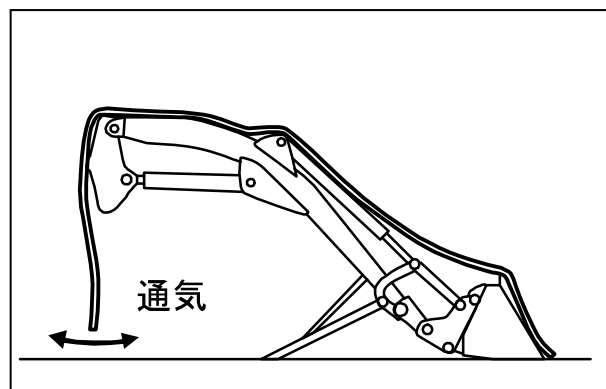


補 足

長期間使用しない場合

- 長期間使用しない場合はローダをトラクタからはずし、ローダの全シリンダを最も縮めた状態にしてください。
- やむを得ずトラクタにローダを装着したまま保管する場合は、必ず
先端アタッチメントをはずし
ローダを接地させ
ローダの全シリンダを最も縮めた状態に
してください
- ローダを保管する場合は、乾燥した屋内に保管してください。
- やむを得ず屋外に保管する場合は、雨のかからない乾燥した平坦な場所を選び、できるだけシートをかけてください。
シートをかける場合は、必ず通気性を確保してください。
- レバーリンク回り、各部のピン、バルブのスプール、シリンダのピストンロッドなどの露出部には、防錆グリスを塗ってください。
- 電磁弁式ローダのスイッチボックス、操作パネル付近ではシリコンを含んでいる潤滑剤や接点復活剤、タイヤ・レザーワックス、ヘアースプレーなどの使用はしないでください。ローダの作動不具合が起こる可能性があります。

必ず読んでください

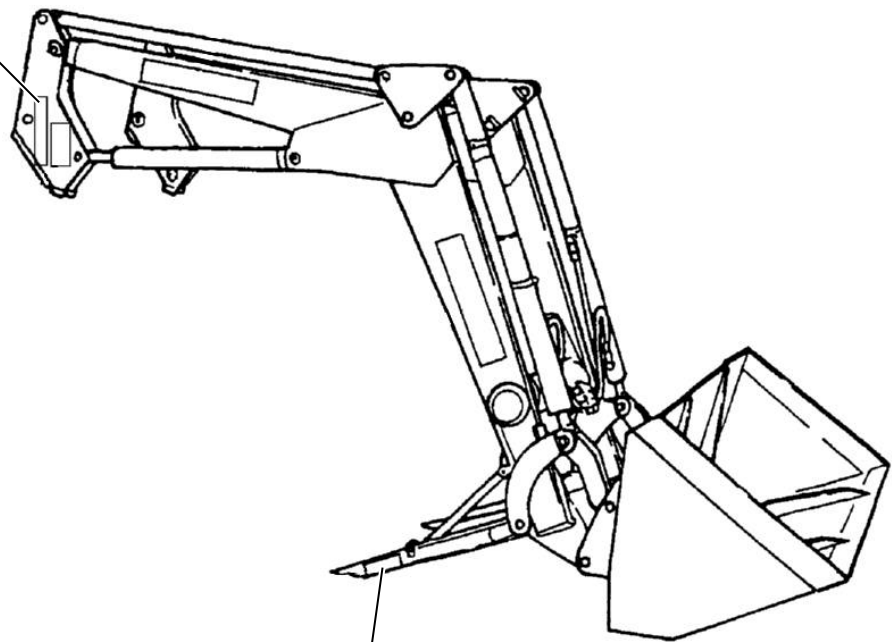


必ず読んでください

安全表示ラベルと その取扱いについて

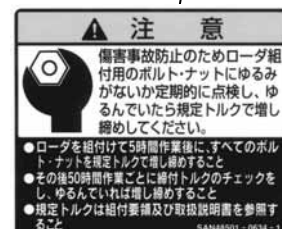
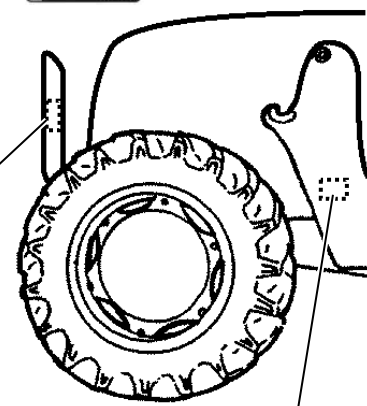
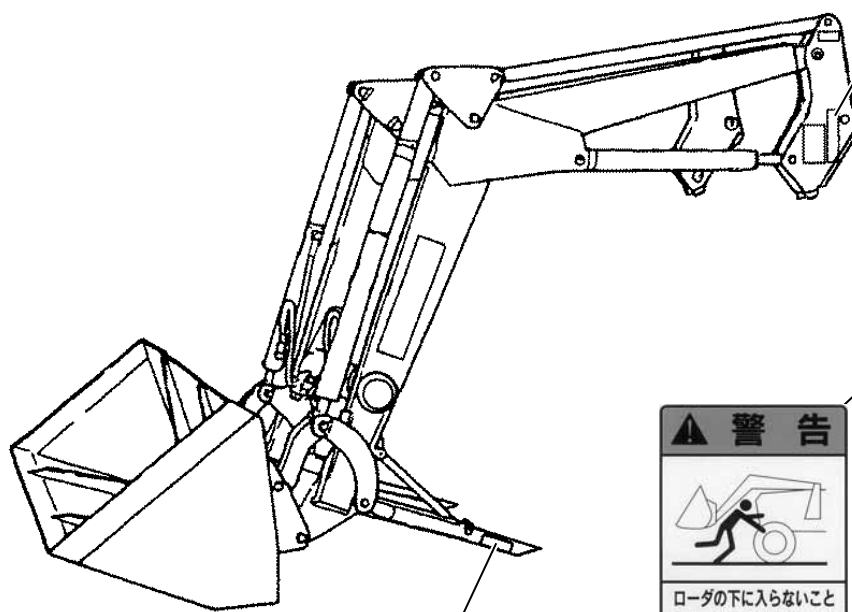
- 安全に作業していただくために安全表示ラベルの貼付位置を示したものです。
- 安全表示ラベルの内容詳細については、20 ページをご参照ください。
- 安全表示ラベルは、常に汚れや破損のないようにしてください。
- ラベルが汚れている場合は石けん水で洗い、やわらかい布でふいてください。
- もし破損または紛失した場合は、新しいものに貼り替えてください。

ローダ右側



ローダ左側

必ず読んでください



安全表示ラベルの手入れについて

- ラベルが汚れている場合は石けん水で洗い、やわらかい布でふいてください。
- 破損または紛失された場合は、下表を参考にお買い上げまたはお近くの「特販店」「J A」（農協）にご注文ください。
- ラベルが貼付されている部品を新品と交換するときは、ラベルも同時に交換してください。

図番	三陽コード	品 名	個数	適 用
	B10001922-1	ラベル	1	安全表示（左） 245 × 60
	B10001923-1	ラベル	1	安全表示（右） 245 × 60
	48501-0634-1	ラベル	1	注意 70 × 85
	48501-1069-2	ラベル	2	スタッド注意 33 × 145
	48501-0612-1	ラベル	2	警告 85 × 55

安全表示ラベルの内容

必ず読んでください

ローダに貼付されている安全表示ラベルを下に示します。

①

危険

転倒・転落による死傷事故を防ぐため：

- トラクタ後部にウエイトを取付けること
- ローダを上げたまま急旋回しないこと
- 斜面に対し横または斜めに走行しないこと
- 片荷作業をしないこと

警告

ローダの下に入らないこと

- ローダの作業範囲内に入らないでください。
- 守らないとローダの下敷きになり死傷するおそれがあります。

警告

ローダ作業には専用アタッチメントを使用すること

- 特にバケットなどでロールベールの運搬・積み込み作業をしないでください。
- 守らないと荷くずれを起こし死傷するおそれがあります。

注意

傷害事故防止のため使用前に取扱説明書とすべての安全指示をよく読んで安全で正しい作業をしてください。

始動時

- 座席に座り、ローダの操作レバーを「中立」にすること
- 周囲に人がいないことを確認すること

運転時

- ローダ操作時や旋回時には周囲に人がいないことを確認すること
- 転倒・転落のおそれのある運転や作業はしないこと
- 修理・点検等でトラクタから離れるときはローダを接地させて操作レバーを「中立」にし、駐車ブレーキをかけてエンジンキーを抜くこと

B10001922-1

②

危険

転倒・転落による死傷事故を防ぐため：

- トラクタ後部にウエイトを取付けること
- ローダを上げたまま急旋回しないこと
- 斜面に対し横または斜めに走行しないこと
- 片荷作業をしないこと

警告

ローダの下に入らないこと

- ローダの作業範囲内に入らないでください。
- 守らないとローダの下敷きになり死傷するおそれがあります。

警告

ローダ作業には専用アタッチメントを使用すること

- 特にバケットなどでロールベールの運搬・積み込み作業をしないでください。
- 守らないと荷くずれを起こし死傷するおそれがあります。

警告

ローダや先端アタッチメントに人を乗せないこと

- 守らないと転落事故を起こし死傷するおそれがあります。

注意

電線や建物など周囲の障害物に注意すること

- 走行時はアタッチメントの下面を地面から20～30cmに注意して運転してください。
- 守らないと障害物をこわしたり、感電死するおそれがあります。

B10001923-1

③

注意

傷害事故防止のためローダ組付用のボルト・ナットにゆるみがないか定期的に点検し、ゆるんでいたら規定トルクで増し締めしてください。

- ローダを組付けて5時間作業後に、すべてのボルト・ナットを規定トルクで増し締めすること
- その後50時間作業ごとに締付トルクのチェックをし、ゆるんでいれば増し締めすること
- 規定トルクは組付要領及び取扱説明書を参照すること

SAN48501-0634-1

⑤

警告

ローダの下に入らないこと

- ローダの作業範囲内に入らないでください。
- 守らないとローダの下敷きになり死傷するおそれがあります。

SAN 48501-0612-1

④

注意

傷害事故防止のため

- スタンドを扱う時は手のひらでスタンド本体を持つこと
- ローダ着脱時はスタンドでトラクタの前輪を持ち上げないこと

×

○

SAN 48501-1069-2

本製品の使用目的について

- (1) 本製品は、作業に適した弊社製の純正アタッチメントを取付け、下記の作業に使用してください。

- 土砂・堆肥・糞等の収集・排出・運搬
- 牧草・稲わら等の収集
- 整地・排土・除雪
- ロールベール・野菜コンテナ・箱物・パレット等の運搬
- 農用の軽掘削
- 材木・土管・パイプ等の運搬
- 抜根
- 堆肥の切り返し
- 溝掘り・穴掘り
- 牧草の押え込み・加圧

- (2) 本製品または弊社製純正アタッチメントを、使用目的以外の作業に使用したり改造しないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんので注意してください。

- (3) 市販類似品等、純正以外のアタッチメントを使用した場合も同様に保証の対象になりませんので注意してください。

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年です。

ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合は、納期及び価格についてご相談させていただきます。

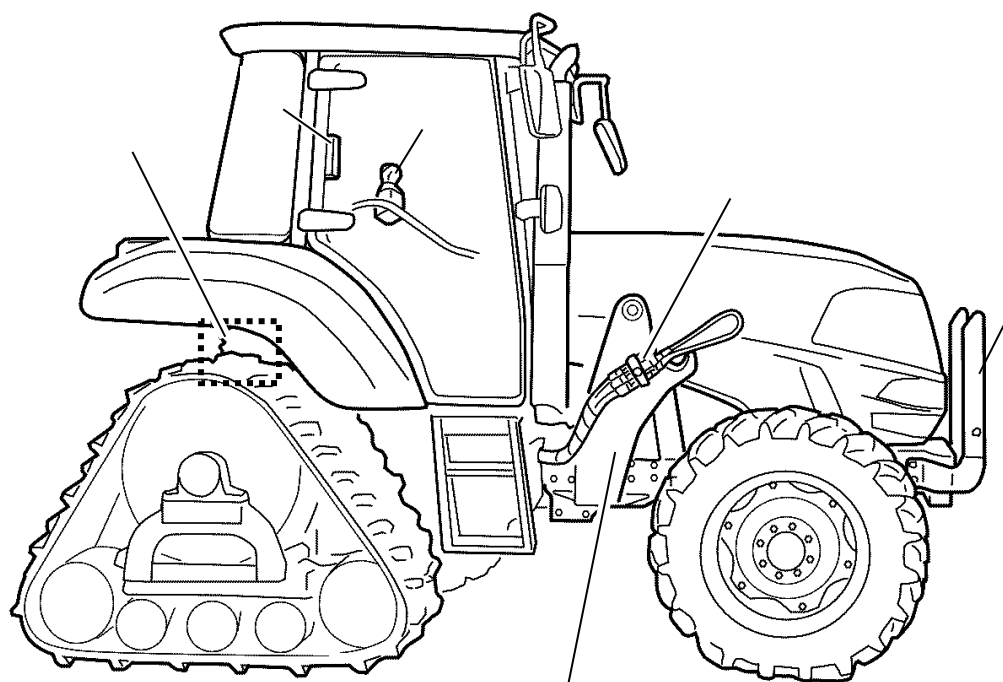
アフターサービスについて

本製品の調子が悪いとき、53ページの「トラブルシューティング」に従って点検・整備してもなお不具合があるときは、お買い上げいただいた特販店・JA（農協）またはサービス工場までご連絡ください。

連絡していただきたい内容

- (1) 型式名
- (2) 製造番号（機番）
- (3) 故障内容（できるだけ詳しく）

各部のなまえ



操作レバー

操作パネル

配管ターミナル

ブラケット

トラクタ側油圧配管

プロテクタ

マスターバルブ

メインフレーム

リフトアーム

平行リンク

スタンド

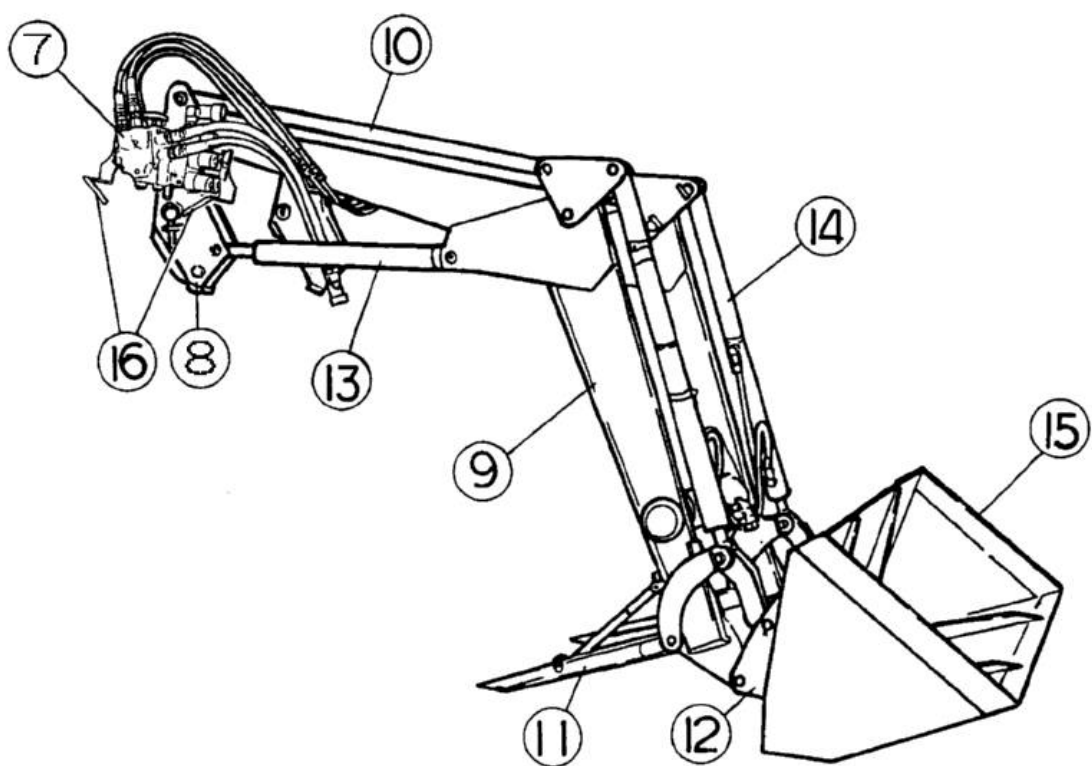
スナップヒッチ

リフトシリンダ

ダンプシリンダ

先端アタッチメント

外部操作レバー



注意 ロータの形状・形態は、改良のため多少異なることがあります。

各部のはたらき

1 操作レバー

レバー 1 本でローダと先端アタッチメントがコントロールできます。

1-1 MC ロードの場合 (マイコン制御タイプ)

操作方法

操作レバーを矢印 (下図) の方向に倒すと、ローダと先端アタッチメントが動きます。

ローダが平行上昇する。

アタッチメントが後傾 (スクイ) した後、
ローダが平行上昇する。

ローダが平行下降する。

アタッチメントが前傾 (ダンプ) しながら
ローダが上昇する。

アタッチメントが後傾 (スクイ) する。

アタッチメントが後傾 (スクイ) しながら
ローダが下降する。

アタッチメントが前傾 (ダンプ) する。

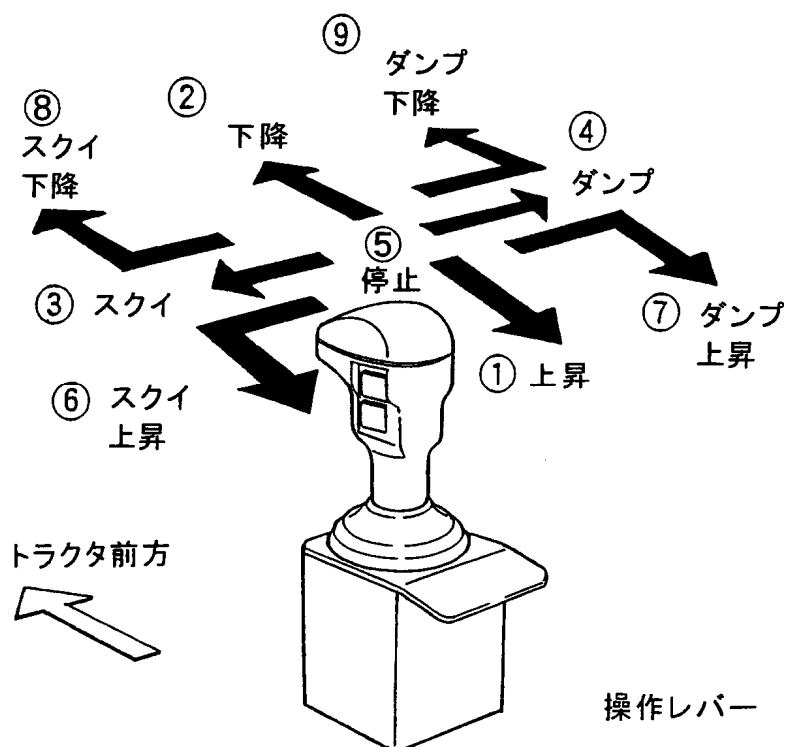
アタッチメントが前傾 (ダンプ) しながら
ローダが下降する。

ローダが停止する。
(中立位置。手を離す)

注意 右図中、複合操作の位置 () は、機構的には直接 (斜め方向に) 操作レバーを入れることができます。ローダ操作に慣れた時点でお使いください。

注意 スクイ・ダンプ操作時にあやまってオプションボタンを押すと、スクイ・ダンプ操作は停止します。解除はレバーを停止位置 () にしてください。

注意 グリップやフードなどがやぶれたり破損した場合は、交換してください。



1-2 PCローダの場合（プッシュプルケーブルタイプ）

操作方法

操作レバーを矢印（下図）の方向に倒すと、ローダと先端アタッチメントが動きます。

ローダが平行上昇する。

ローダが停止する。
（中立位置。手を離す）

ローダが平行下降する。

ローダが「フローティング」の状態になる。
（アタッチメントが接地し、上昇・下降方向ともフリーになる）

アタッチメントが後傾（スクイ）する。

ローダが「フローティング」の状態、アタッチメントが後傾（スクイ）する。

アタッチメントが前傾（ダンプ）する。

ローダが「フローティング」の状態、アタッチメントが前傾（ダンプ）する。

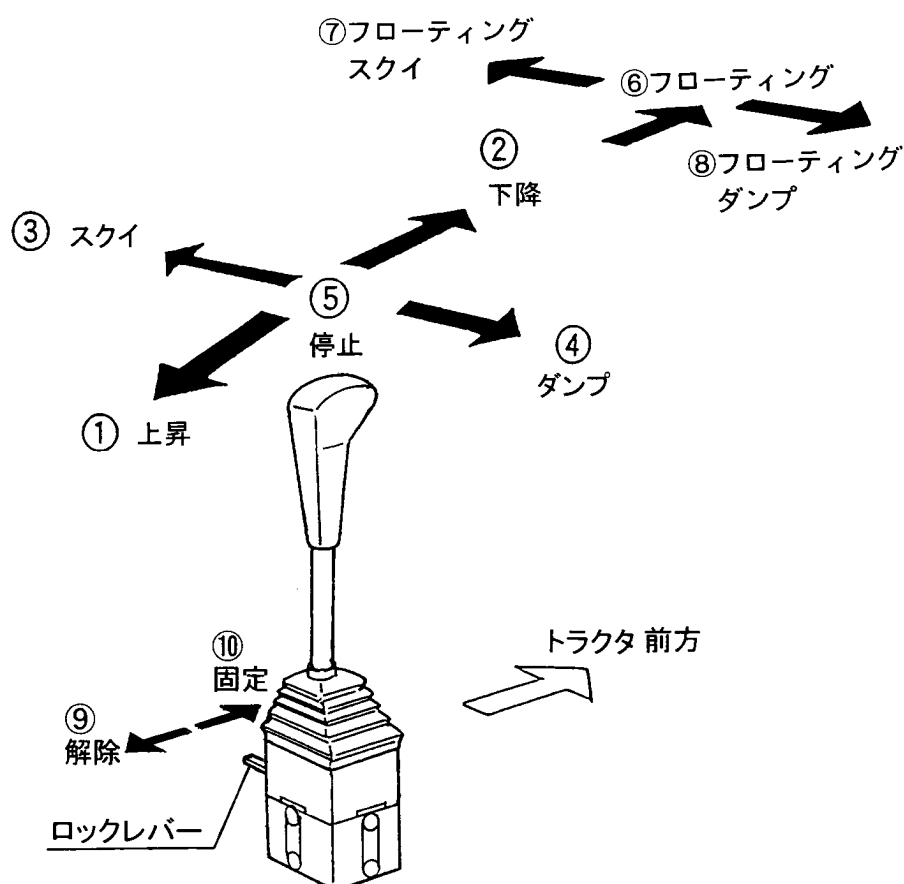
● 中立ロックレバー（下図）

ローダを動かす場合、レバーを後方に倒す。（解除側）

ローダを固定する場合、レバーを前方に倒す。（固定側）

注意 レバーが固定側に入りにくい場合は、操作レバーを軽く上下に動かしながら操作してください。

注意 グリップやフードなどがやぶれたり破損した場合は、交換してください。



⚠ 注意

フローティングの操作は、必ず前輪を接地させた状態で行なってください。

【守らないと】

前輪を浮かせた状態から操作レバーを「フローティング」に切換えると、トラクターが急降下して傷害事故となるおそれがあります。

- 「フローティング」の場合
(右図 の位置にした場合)

リフトシリンダがフリーの状態(上昇・下降方向とも)になり、リフトアーム先端にかかる力や衝撃を和らげます。

注意 操作レバーは前方の の位置まで倒すと固定されます(ディテント機能)。
「フローティング」を解除したい場合は操作レバーを の位置(停止)まで戻してください。

フローティングでの作業例

- 除雪作業(バケット・グレーダなど)
- 集草作業(ヘイフォーク・マニアフォークなど)
- その他収集作業
- 排土作業
- 運搬作業

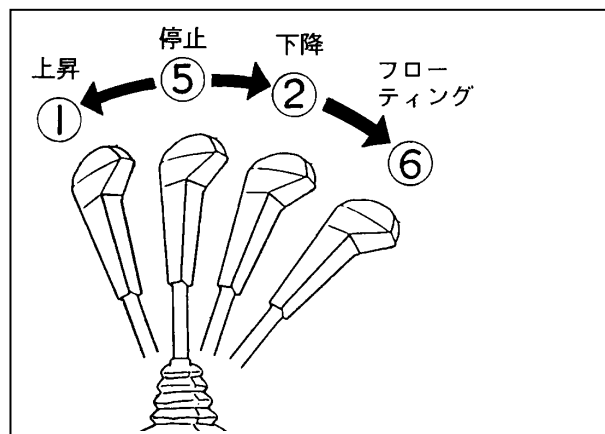
● ハイレックキット

ハイレックキットはリフトアーム中央のアームコネクタに取付けられた電磁弁・コード・継手・ホース一式を含む商品です。

ロールグラブや除雪機などのアクチュエータ(油圧シリンダや油圧モータ)を持つ先端アタッチメントを作動させるのに必要な油圧部品です。

ハイレックキットはオプション(別売)部品となります。別途ご購入ください。

品 名: ハイレックキット
型 式: HLK875PC, FLDA
品 番: 7TN300-00300



- 「複動」の場合
(上図 の位置にした場合)
リフトシリンダは上昇・下降方向ともに油圧が働きますので、積荷を持ち上げる上方向の力はもちろんのこと、下方向に押さえる力が出ます。

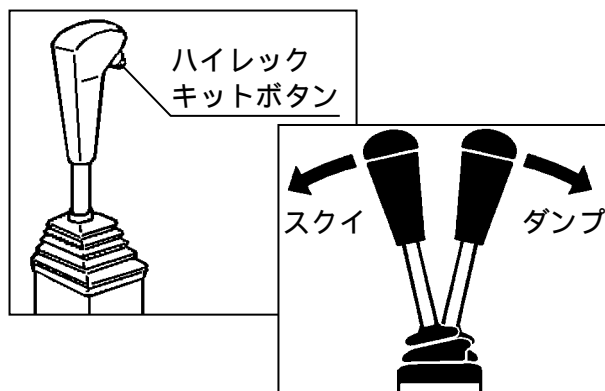
複動での作業例

- 積荷の加圧、押さえ込み
- 前輪を浮かす場合(ぬかるみからの脱出)
- 農用の軽掘削、整地作業
- ロードを装着・離脱する場合

ハイレックキットの操作方法

操作レバーのボタンを押しながら、操作レバーをスクイ側(またはダンプ側)に倒すと、油圧アタッチメントの可動部が作動します。

操作レバーを中立に戻す(手を離す)と、アタッチメントの可動部が任意の位置で停止します。



2 操作パネル（M C ロードの場合）

2-1 トラクター連動機能

ローダ操作に連動してトラクターを作動させます。

【トラクター連動機能】

- 倍速禁止機能 27 ページ
- オート機能 28 ページ
- トラクターのエンジン回転アップ機能 33 ページ
- トラクター最高速度変更機能 34 ページ
- スクイ・ダンプ エンジン回転アップ機能 36 ページ

注意 【トラクター連動機能】は副変速「1」のときのみ使用できます。必ず副変速が「1」になっていることを確認してください。

操作方法

操作パネル ① スイッチを押す。

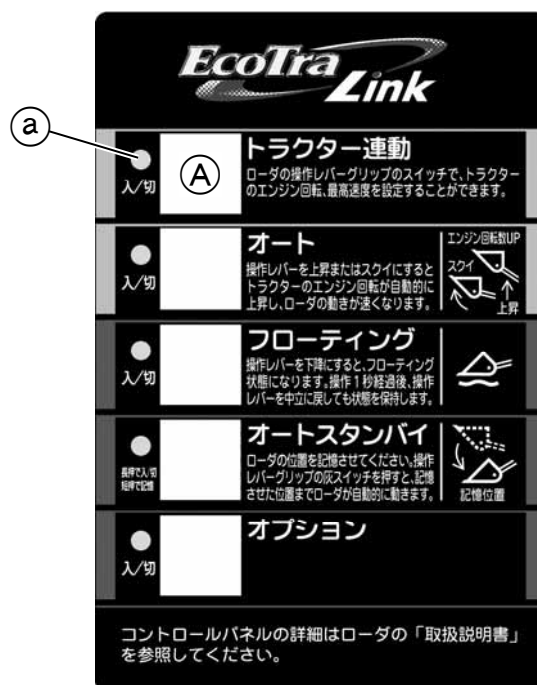
ランプ ② が点灯するとトラクター連動機能の使用準備が完了。
このとき、トラクター計器パネルの作業機通信ランプ  も点灯します。

トラクター連動が「入」の時は、トラクターの倍速機能は働きません。

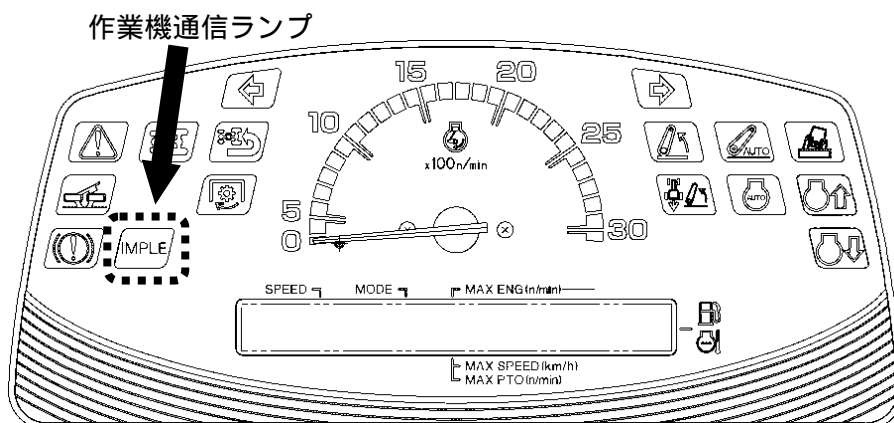
注意 ② のランプが点灯しない場合、

- 他のインプリメントと連動してる
- 信号配線が接続されていない

ことがあります。確認をしてください。



操作パネル



トラクター計器パネル

2-2 オート機能

ローダの上昇・スクイ操作に連動してトラクターのエンジン回転数が自動でアップします。

注意 トラクターのエンジン回転設定ダイヤルで定めた最大エンジン回転数までエンジン回転数がアップします。

操作方法

トラクター連動機能のランプ **①** が点灯している状態で、**②** スイッチを押す。
(**②** ランプが点灯する)

操作レバーを上昇またはスクイに最大操作するとトラクターのエンジン回転数が自動でアップします。

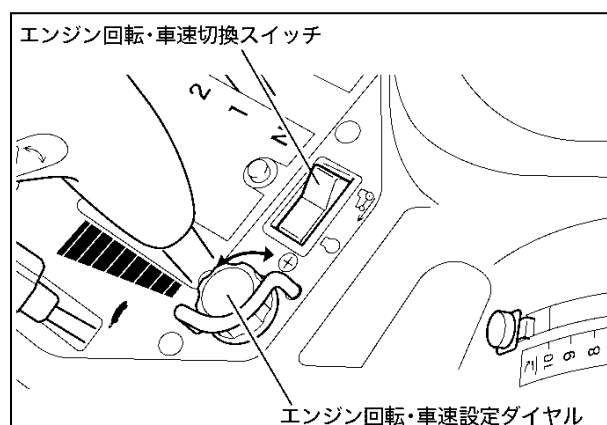
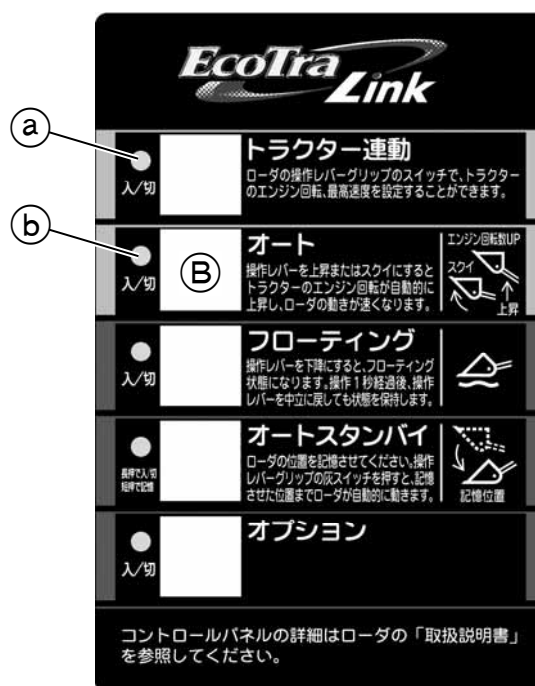
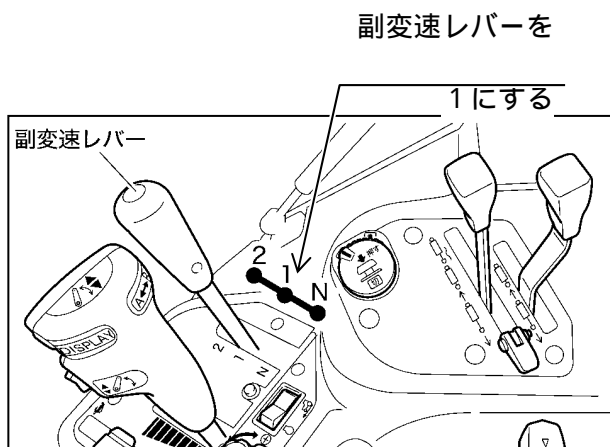
注意 主クラッチを「切」・リバーサを「中立」にする必要はありません。

注意 エンジン回転数がアップしても車速は一定に保持されます。

注意

- トラクターとの連動がされていない (**①** ランプ消灯) 状態では、オート機能は働きません。
(このとき **②** ランプも連動し消灯)
- トラクターと連動 (**①** ランプ点灯) する時、前回連動機能を切った (**①** ランプ消灯) 時のオート機能 入/切 状態になります。
この状態はトラクターのキーを「OFF」にしても保持されます。

注意 副変速は「1」の時のみオート機能が使用可能です。



2-3 フローティング機能

⚠ 注意

フローティングの操作は、必ず前輪を接地させた状態で行なってください。

【守らないと】

前輪を浮かせた状態から「フローティング」に切換え、操作レバーを「下降」に入れると、トラクターが急降下して傷害事故となるおそれがあります。

リフトシリンダがフリーの状態（上昇・下降方向とも）になり、アーム先端にかかる力や衝撃を和らげるため、除雪・集草・排土作業に最適です。

操作方法

操作パネル中、フローティングの © スイッチを押す
（ © ランプが点灯します）

操作レバーを最大下降にする。
この状態でトラクターを走行させると、先端アタッチメントが地面の起伏に沿って上下します。（フローティング状態）

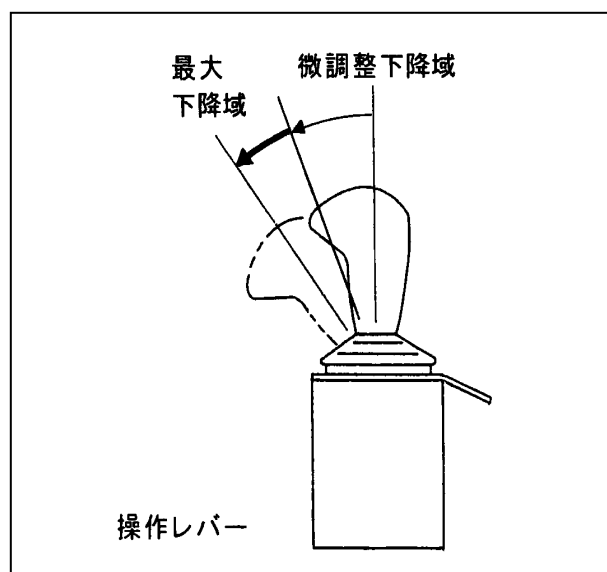
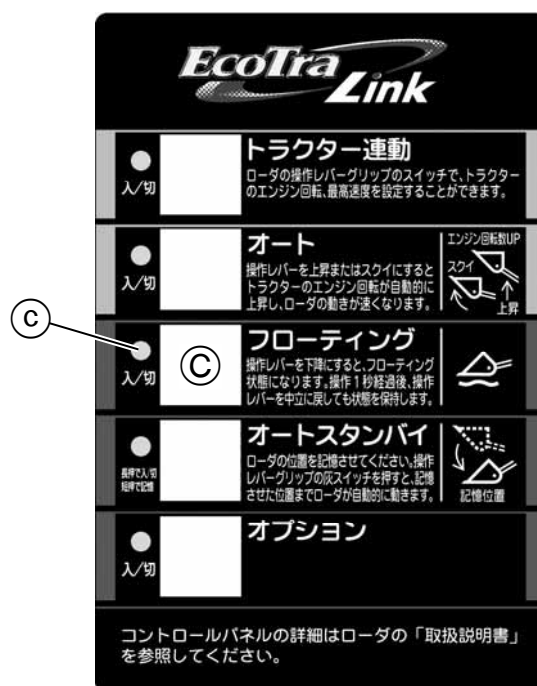
注意 フローティング状態での走行は 4 km/h 以下で行ってください。

フローティングの自己保持

ローダ先端が地上 50 cm 以下の状態で、

操作レバーを 1 秒以上最大下降にするとフローティングが自己保持されます。
（操作レバーから手を離しても、ローダがフローティングの状態を維持し続けます）

注意 操作レバーの傾きが微調整下降域ですとフローティング状態にはなりません。



フローティング（自己保持）の解除

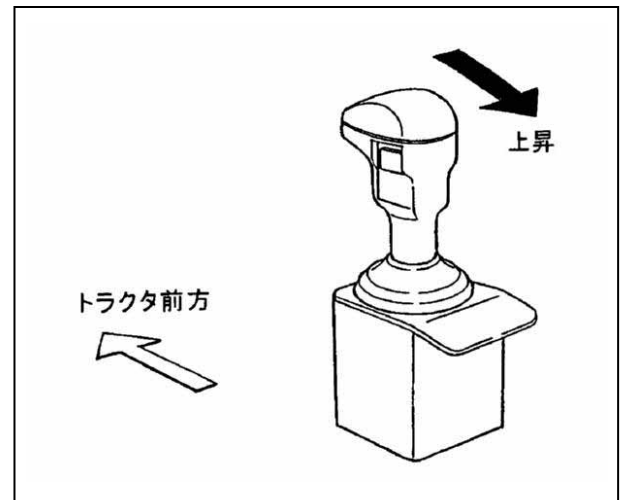
操作レバーを上昇にするか、

操作パネルの ◎ スイッチを再度押すと
（ ◎ ランプ消灯）

フローティング（自己保持）が解除されます。

フローティングでの作業例

- 除雪作業（バケット、グレーダなど）
- 集草作業（ヘイフォーク、マニアフォークなど）
- その他収集作業
- 排土作業
- 運搬作業



複動での作業例

- 積荷の加圧、押さえ込み
- 前輪を浮かす場合（ぬかるみからの脱出）
- 農用の軽掘削、整地作業
- ロードを装着・離脱する場合

注意 フローティングを解除（ ◎ ランプ消灯）すると、リフトシリンダは上昇・下降方向ともに油圧が働きますので、積荷を持ち上げる上方向の力はもちろんのこと下方向にも押さえる力が出ます。

注意 リフトセンサの異常を検出すると、フローティングの自己保持は解除されます。

2-4 オートスタンバイ機能

ローダの位置を記憶させることができます。
操作レバーが中立の位置で灰ボタン（オートスタンバイ ④）を押すと、記憶させた位置までローダが自動的に動いた後、停止します。

操作方法

ローダを記憶させたい位置まで操作する。

操作パネル オートスタンバイの ④ スイッチを長押し(約 2 秒)する。
(④ ランプが点灯)

注意 操作だけではオートスタンバイ位置の記憶はされません。かならず 操作を行ってください。

オートスタンバイの ④ スイッチを押し、ローダの位置を記憶させる。

操作レバーの灰ボタン(オートスタンバイ ④)を押すと、記憶させた位置までローダが自動的に動きます。
(操作レバーの操作は不要です)

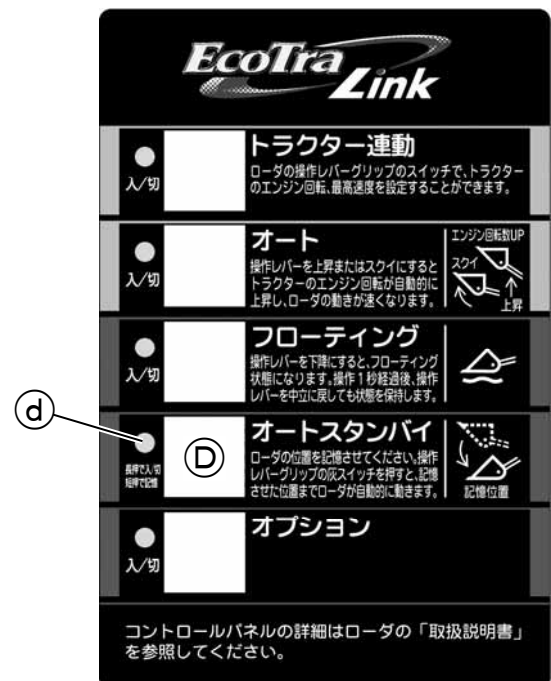
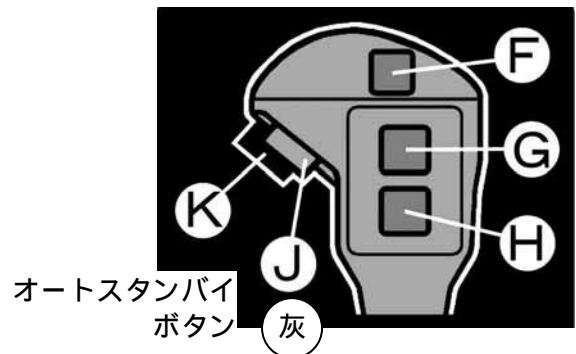
オートスタンバイの ④ スイッチを再度長押しする(④ ランプ消灯)と、操作レバーの灰ボタン ④ を押してもローダは動きません。

注意 ④ ランプ消灯後は、④ スイッチを押してもローダ位置は記憶されません。

注意 ④ ランプ点灯状態で、トラクターのキーを「OFF」にしても記憶は消去されません。トラクターのキーを「ON」にすれば前回の記憶位置でオートスタンバイが作動します。

注意 リフトセンサまたはダンプセンサの異常が検出されると、オートスタンバイは作動しません。

注意 オートスタンバイが作動している途中で操作レバーを操作すると、操作レバーの操作が優先されます。



2-5 ハイレックキット

ハイレックキットはリフトアーム中央のアームコネクタに取付けられた電磁弁・コード・継手・ホース一式を含む商品です。

ロールグラブや除雪機などのアクチュエータ（油圧シリンダや油圧モータ）を持つ先端アタッチメントを作動させるのに必要な油圧部品です。

ハイレックキットはオプション（別売）部品となります。別途ご購入ください。

品 名：ハイレックキット

型 式：H L K 8 7 5 M C , F L D A

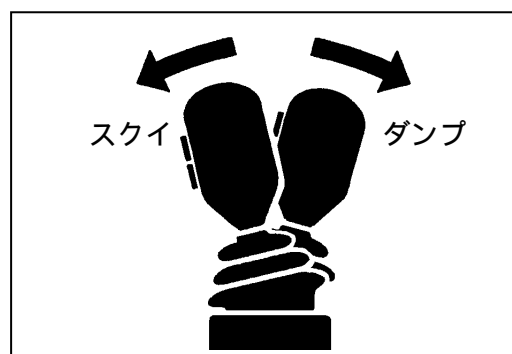
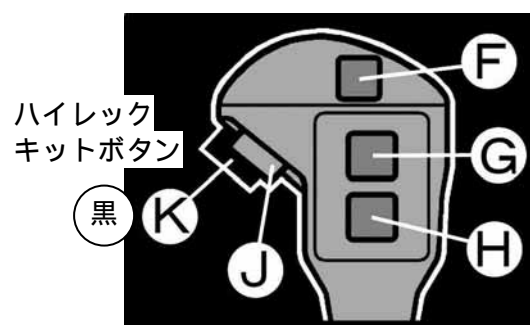
品 番：7 T N 3 0 0 - 0 0 6 0 0

ハイレックキットの操作方法

操作レバーの黒ボタン（ハイレック ㊟）を押しながら、

操作レバーをスクイ側（またはダンプ側）に倒すと、油圧アタッチメントの可動部が作動します。

操作レバーを中立に戻す（手を離す）と、アタッチメントの可動部が任意の位置で停止します。



2-6 トラクターのエンジン回転アップ機能

ローダ 操作レバーのボタン ⑤ を押すことで
トラクターのエンジン回転がアップします。

操作方法

トラクター連動機能のランプ ① が点灯している状態で、操作レバーの ⑤ ボタンを押す

ボタンを押している間、エンジン回転数がアップします

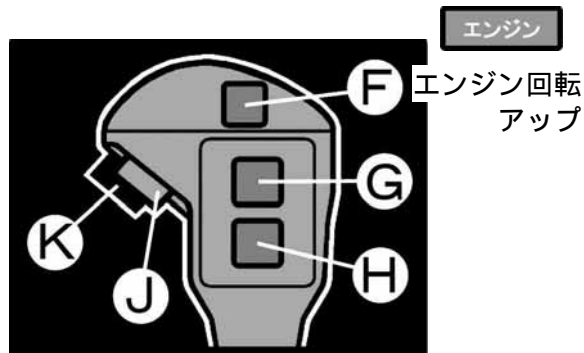
注意 トラクターのエンジン回転設定ダイヤルで
定めた回転数までエンジン回転数がアップします。

注意 エンジン回転数がアップしても車速は一定に保持されます。

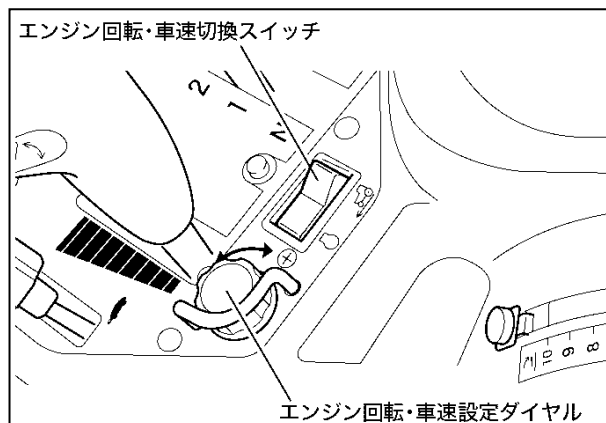
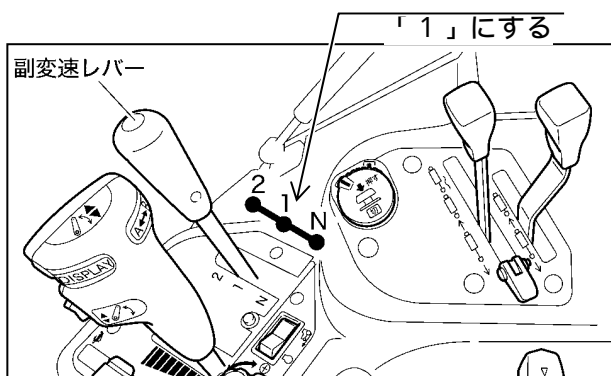
注意 トラクターとの連動がされていない（①
ランプ消灯）状態では、エンジン回転アップ機能は働きません。

注意 副変速は1の時のみトラクターのエンジン
回転アップが可能です。

注意 ボタン ⑤ とボタン ⑥ またはボタン ⑦
を同時押しした場合は、⑥ または ⑦ の
車速変更が優先されます。



副変速レバーを



2-7 トラクター最高速度変更機能

ローダ 操作レバーのボタン ㊸㊹ を押すことでトラクターの最高速度を変えることができます。

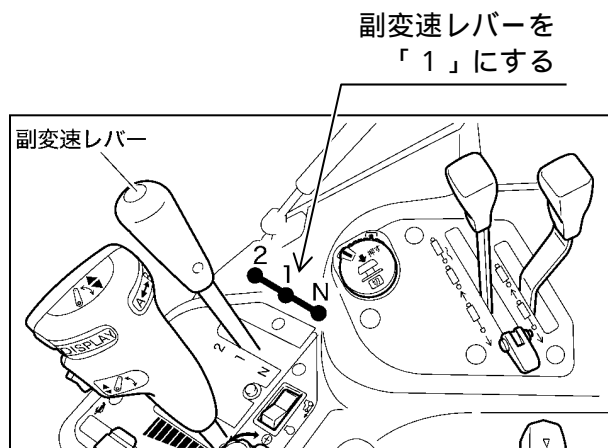
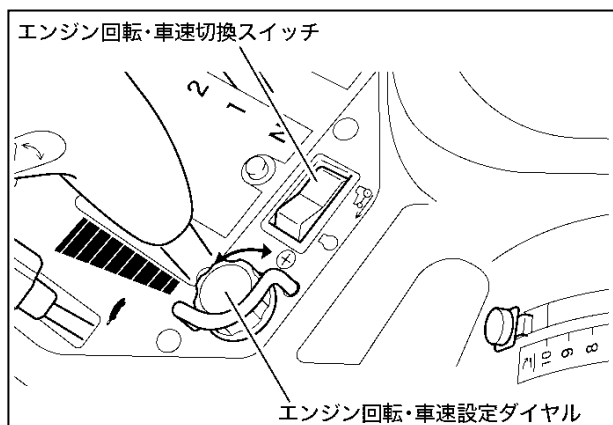
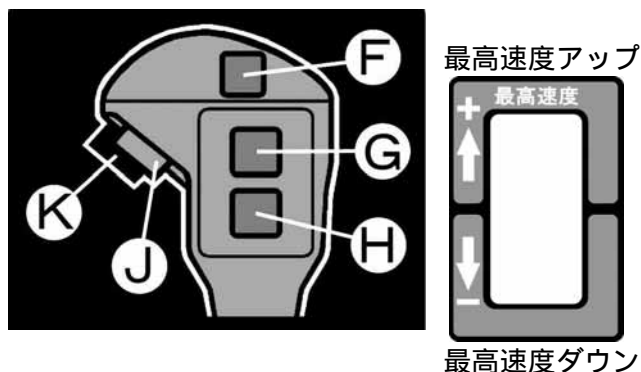
操作方法

トラクター連動機能のランプ ㉑ が点灯している状態であることを確認する

- 操作レバー ㊸ ボタン (+ , ↑) を押す
㊸ ボタンを押している間、最高速度が上昇し続けます。
- 操作レバー ㊹ ボタン (- , ↓) を押す
㊹ ボタンを押している間、最高速度が下降し続けます。

注意 副変速は 1 の時のみ車速変更が可能です。

注意 ボタン ㊸㊹ を押すことはトラクターの車速設定ダイヤルを回すことと同じです。



調整方法

- 操作レバーボタン（+，↑）を押す
トラクター最高速度アップ
- 操作レバーボタン（-，↓）を押す
トラクター最高速度ダウン

注意 ボタンを押すことはトラクターの車速調整ダイヤルを回すことと同じです。
（車速調整ダイヤルの操作方法はトラクターの「取扱説明書」を参照ください）

注意 車速は目安です。

最高速度
アップ



最高速度
ダウン



[最高車速]

速い
(11km/h)

(5km/h)

遅い
(微速)

車速 11km/h

車速 5km/h

車速 2.5km/h

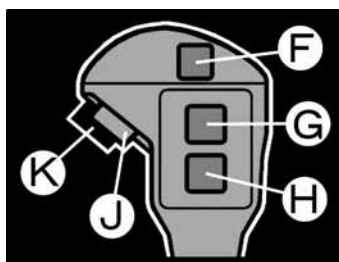
車速 5.5km/h

車速
微速

レバーを
前方に倒す

レバーを
手前に引く

[レバー角度]



2-8 スクイ・ダンプ エンジン回転アップ機能

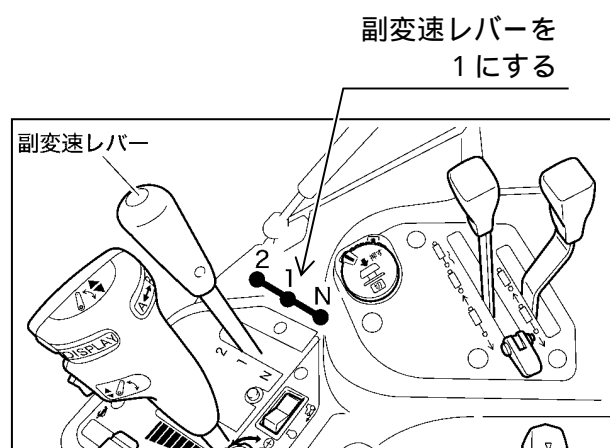
スクイ・ダンプの最大操作を繰り返し行くと、自動でエンジン回転がアップし、ショックダンプ操作を補助します。

操作方法

トラクター連動機能のランプ ① が点灯している状態であることを確認する

スクイ・ダンプの最大操作を強制的に繰り返し瞬時に行う

注意 副変速は 1 の時のみスクイ・ダンプエンジン回転アップ機能が働きます。



3 外部操作レバー（MCローダの場合）

バルブ左右にある外部操作レバーでローダと先端アタッチメントを操作できます。

トラクターのエンジンを停止して操作すると、残圧抜きにもなります。

操作方法

操作レバーを矢印方向に倒すと、ローダと先端アタッチメントが動きます。

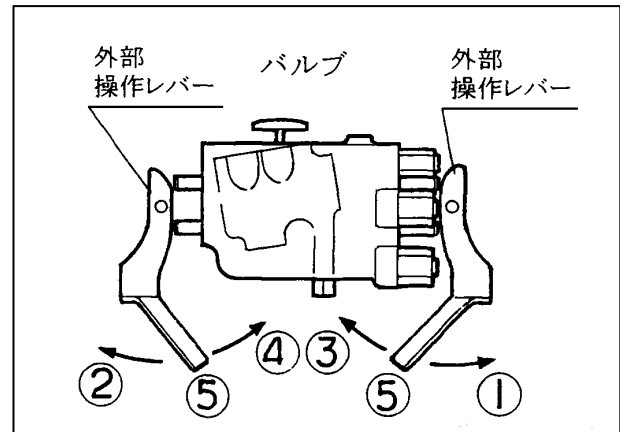
ローダが平行上昇する

ローダが平行下降する

アタッチメントが後傾(スクイ)する

アタッチメントが前傾(ダンプ)する

ローダが停止する(中立位置 手をはなす)



残圧の抜き方

カブラをつなぐ場合、油圧回路内に残圧がかかっているため、つながにくいことがあります。これはカブラを切り離す時にアームが浮いていたり、接地していてもアームやアタッチメントに無理な力がかかったままの状態で行うからです。

したがって、カブラを切り離す時には、必ずトラクターのエンジンを停止し（OFF）アタッチメントを接地させる。外部操作レバーを前後に2～3回ゆっくりと操作する。

これで油圧回路内の残圧は抜け、次にカブラをつなぐ際にスムーズにつながることができます。

4 トレーラコンセント

トラクター側とローダ側の電気コードを接続するコンセントです。

つなぎ方

メス側のカバーを上げる。

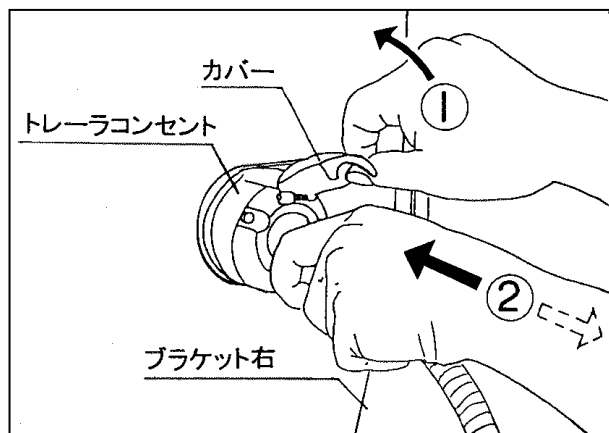
取手部分が水平方向となるようにして、オス側コネクタを差し込む。

注意 コネクタを完全に差し込むとメス側のカバーがストップとなり、コードははずれません。

はずし方

メス側上部のカバーを上げる。

オス側コネクタを引き抜く。



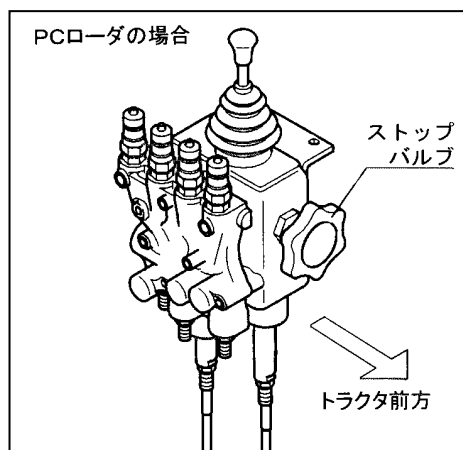
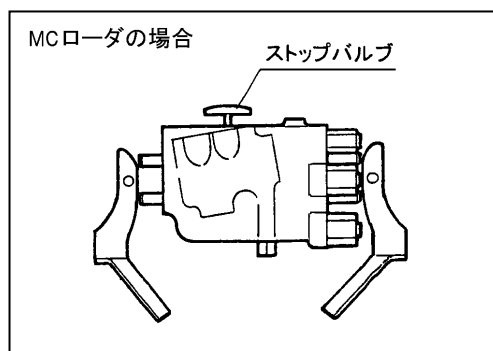
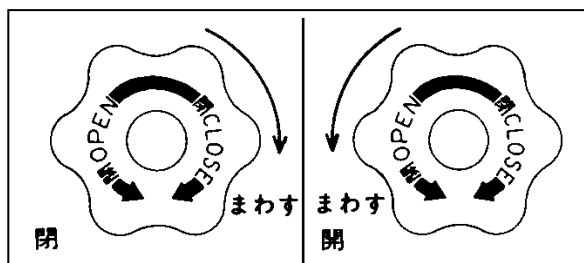
5 ストップバルブ

油圧回路中の油の流れを断続させるバルブです。

ローダを使用しない時は、アームの落下防止のためグリップを「閉」にしてください。

油を止める場合 グリップを「閉」にする。
(右へ回す)

油を流す場合 グリップを「開」にする。
(左へ回す)



6 水平確認棒

運転席からアタッチメント底面の角度が確認できる装置です。

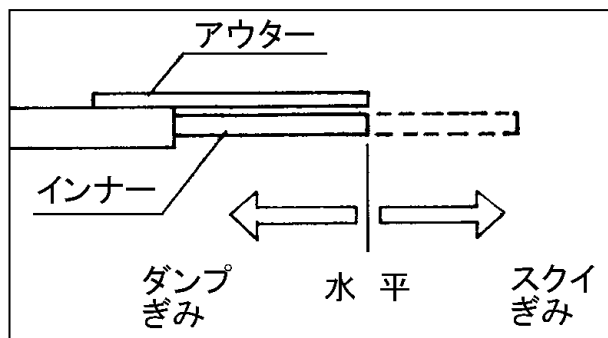
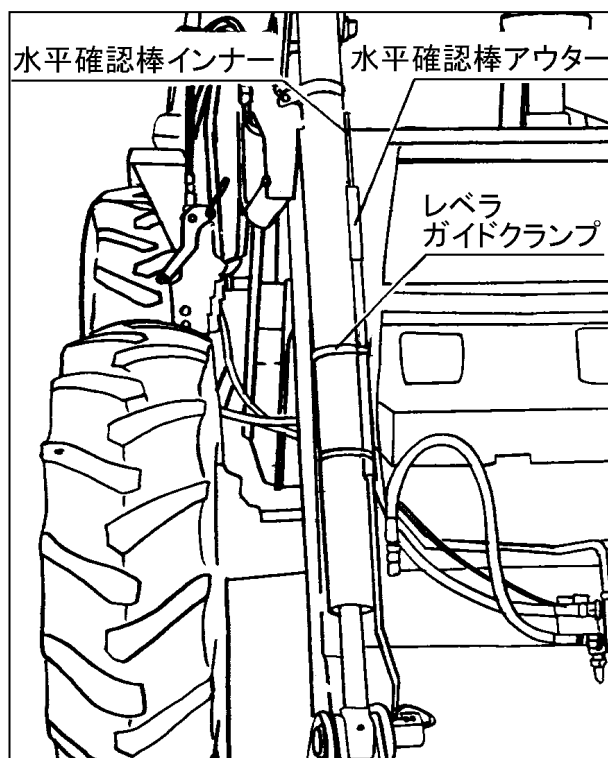
取付方法

アームを下降させ、アタッチメントの底面が地面と平行になるよう接地させる。

アウターの棒の先端とインナーの先端が一致するようにアウターの位置を決め、レベラガイドクランプで固定する。

ローダがどの位置にあっても、アウターとインナーの先端が一致すればアタッチメントは水平となります。（右下図）

注意 アタッチメントを交換した場合、アウターの位置も変わりますので再調整してください。



7 カブラ（セルフシーリングカップリング）

注意

カブラが結合できないからといって、カブラの先端部をハンマーやドライバーなどでたたかないようにしてください。

【守らないと】

油やポペットが飛び出し、傷害事故となるおそれがあります。

カブラの先端を傷つけると、油もれや接続不良などを起こし、カブラを破損させる原因となります。残圧のためカブラが結合できない場合はホースとカブラのネジ結合部をゆるめて少し油を抜き、再び締め込んでください。（右図）

- コントロールバルブ・ホースなどに取付けて、油圧回路をつないだり切り離したりする装置です。

カブラのつなぎ方（右図）

カブラメスのスリーブを引く。
カブラメスにカブラオスを差し込み、スリーブを戻す。

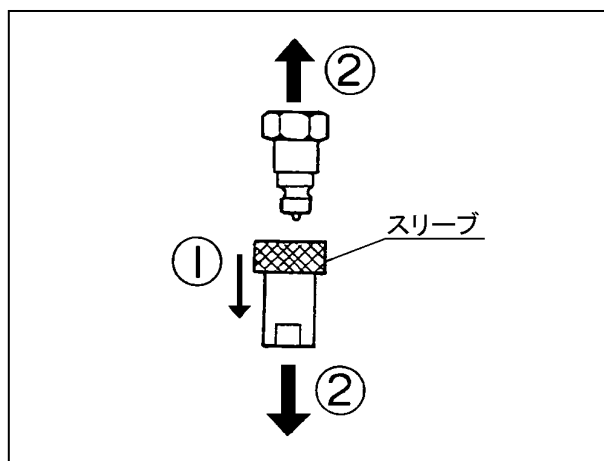
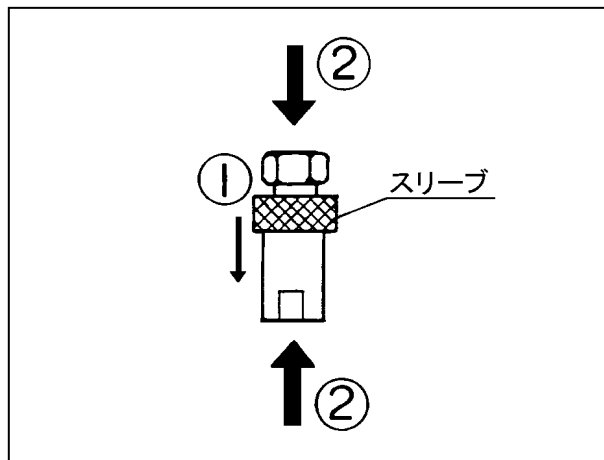
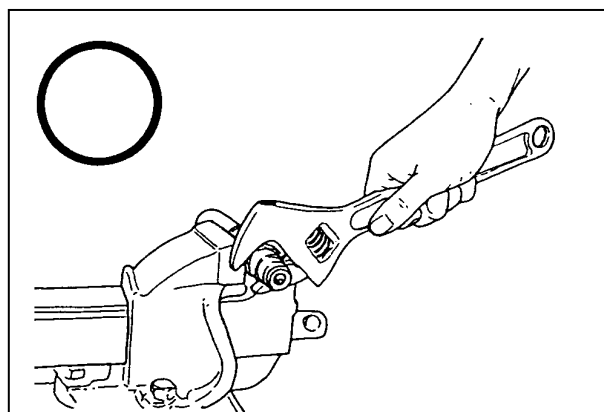
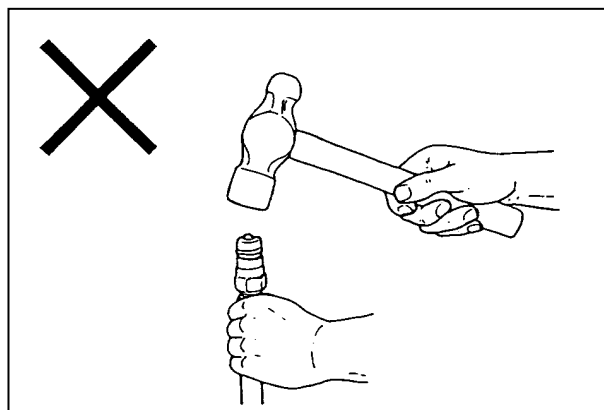
カブラの切り離し方（右図）

カブラメスのスリーブを引く。
カブラオスを引き抜く。

注意 カブラを切り離した後は、カブラにカブラキャップをかぶせてください。

残圧について

カブラをつなぐ場合、油圧回路内に残圧がかかっているため、つなぎにくいことがあります。これは、カブラを切り離す時に、リフトアームが浮いていたり、接地していてもリフトアームやアタッチメントに無理な力がかかったままの状態で行なうからです。



着脱のしかた

⚠ 注意

- ローダの装着及び離脱は硬くて平らな場所を選んで行なってください。
スタンドの接地面が地面に埋まるような場合には、下に板等を敷いてください。
- 必ず先端アタッチメントを取付けてください。
先端アタッチメントはバケット・マニアフォーク等をお勧めします。
上記以外のアタッチメント及びアタッチメントなしの場合、アタッチメントの下に角材（□100～150mm）等を敷いてください。
- トラクターはできる限りゆっくりと前後進させてください。（2 km/h 以下）
- 装着および離脱を行う前に、操作パネルの「フローティング」を「切（消灯）」にしてください。
- アクセルをふかさないでください。（アイドリングの状態で行なう）
- トラクターとローダの間に立たないでください。
- 可動部分に身体や手足を入れないでください。
- トラクターから離れる場合は必ずエンジンを切り（OFF）、駐車ブレーキをかけてください。

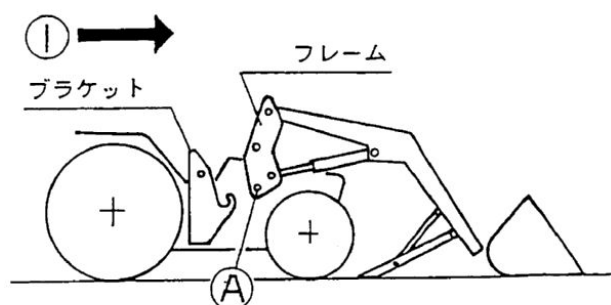
【守らないと】

ローダが転倒してケガをするおそれがあります。

装 着

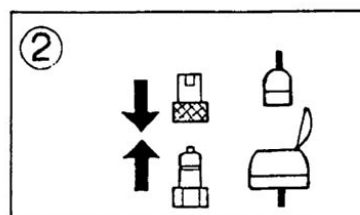
エンジンをかけてトラクタをゆっくりと前進させ、フレーム下部のピン ① がブラケット(左右とも)に当たったらトラクタを止める。

注意 この時、ブラケット(トラクタ側)でフレーム(離脱部)を無理に押さないで下さい。無理に押しますとローダに残圧が発生し、油圧カプラがつかないになります。



エンジンを停止し（OFF）、駐車ブレーキをかけ、油圧カプラ・トレーラコンセントをつなぐ。

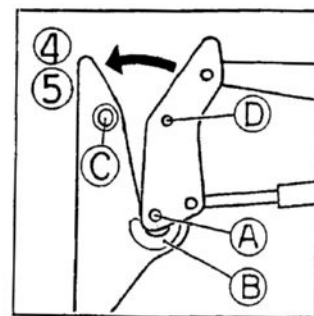
注意 油圧カプラのつながり方は、40 ページを参照してください。



トラクタに乗車しエンジンをかける。

操作レバーを「ダンプ」にし、ピン④がブラケットのフック⑤にはまり込み、ブラケットのボス穴⑥がフレーム内にかくれたらレバー操作をやめる。

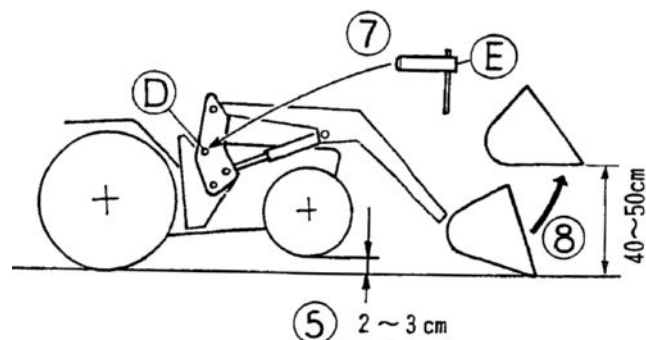
注意 穴が合わないときは「下降」「上昇」のレバー操作をこきざみに繰り返してください。



操作レバーを「下降」にし、前輪を地面から浮かす。(約2～3cm程)この時、ドッキングピンの穴⑦とボス穴⑧が合います。

エンジンを停止し(OFF)、駐車ブレーキをかけて下車する。

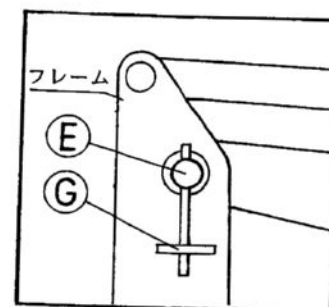
穴⑦にドッキングピン⑧を入れる。(左右とも)



⚠ 注意

ドッキングピン⑧の取手は、ピン穴下の差し込み部⑨に差し込んでください。(右図)

【守らないと】
ドッキングピン⑧がはずれ、傷害事故につながります。

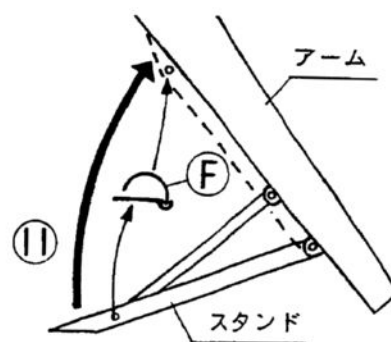


トラクタに乗車しエンジンをかける。

アタッチメント先端が地上40～50cmになるまでアームを上昇させる。

エンジンを停止し(OFF)、駐車ブレーキをかけて下車する。

スタンドのリンチピン⑩を抜いて、スタンドをアーム側に格納し、このピン⑩で固定する。(左右とも)



以上で、装着完了です。

離 脱

先端アタッチメントを地面から離した状態で、操作レバーを「ダンプ」にし、先端アタッチメントを 10～15 度前傾させる。

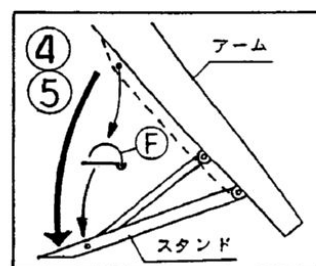
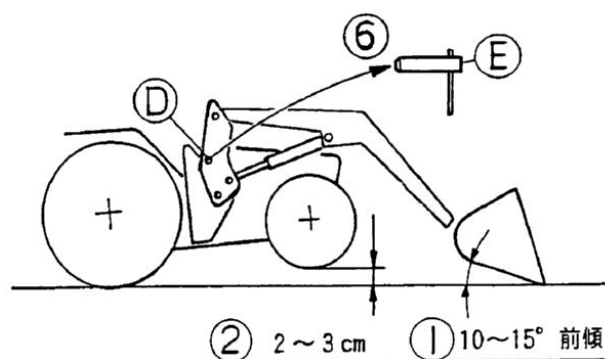
操作レバーを「下降」にし、前輪を地面から浮かす。（約 2 ～ 3 cm 程）

エンジンを停止し（OFF）、駐車ブレーキをかけて下車する。

スタンドのリンチピン ⑥ を抜き、スタンドを下げる。（左右とも）

この時、スタンドが固定されていること（縮まないこと）を確認してください。

ピン ⑥ をスタンド側にセットする。



⚠ 注意

- スタンドを扱う場合、スタンド本体を持ってください。
- スタンドの下に手足を入れないで下さい。

【守らないと】

スタンドで指をはさんだり、足元にスタンドが落下し、ケガをするおそれがあります。

フレームからドッキングピン⑤を抜く。
（左右とも）

抜いたドッキングピンは、そのハンドル部分をピン穴下のフックに差し込んでください。

トラクタに乗車しエンジンを始動し、駐車ブレーキを解除する。

操作レバーを「上昇」にし、フレーム上部を 10～15 cm前傾させる。

操作レバーを「スクイ」にし、フレーム下部のピン ① とブラケットのフック ② とのスキマが 15～20cm になったらレバー操作をやめる。

エンジンを停止し（OFF）、駐車ブレーキをかけて下車する。

残圧を抜く。
外部操作レバーを前後に 2～3 回ゆっくり操作する。

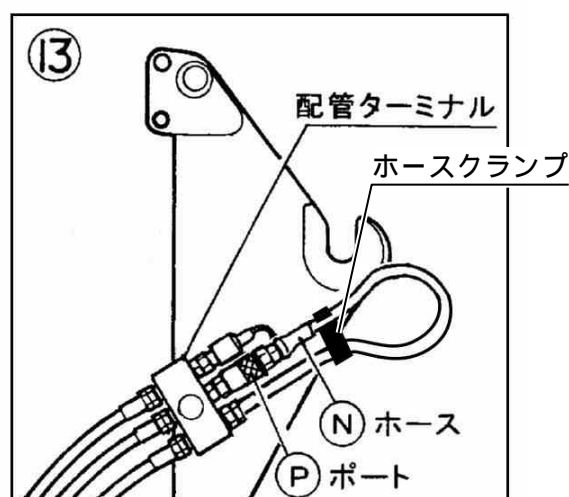
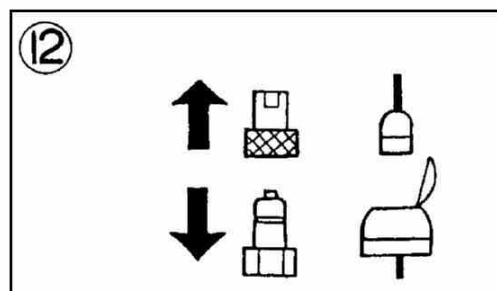
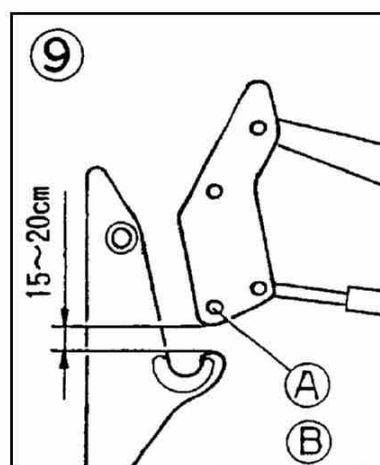
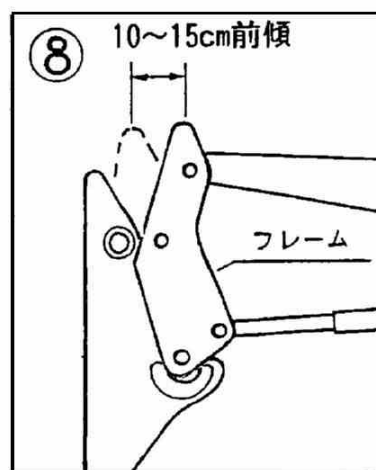
油圧カブラ・トレーラコンセントを切りはなす。

注意 油圧カブラの切りはなし方は 40 ページを参照してください。

配管ターミナル ③ ホースのカブラ(オス)を ④ ポートのカブラ(メス)につなぐ。

配管ターミナルのホースが垂れないよう、ホースクランプ（S 字型）でつなぐ。

以上で離脱完了です。



アタッチメントの取付け・取りはずし

⚠ 注意

- アタッチメントの取付け・取りはずしは平らな場所を選んで行なってください。
- ロードヤアタッチメントの作業範囲内に入ったり、近づいたりしないでください。
- トラクターはできる限りゆっくりと前進（後進）させてください。（2 km/h 以下）
- トラクターとロードヤの間に立たないでください。
- 可動部分には体や手足を入れないでください。

【守らないと】

傷害事故となるおそれがあります。

取付け

注意 図はバケットの場合。他のアタッチメントの場合も同様です。

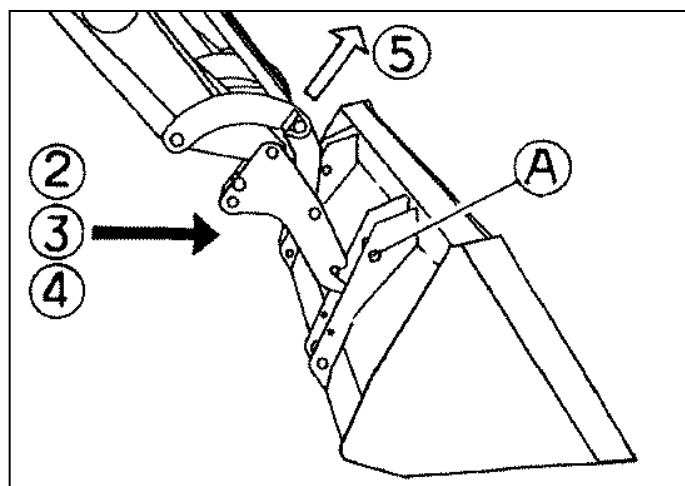
アタッチ止めピンを抜く。（左右とも）

操作レバーを「ダンプ」にして、スナップヒッチを最大ダンプ状態にする。

スナップヒッチ先端をアタッチメントの取付部 ④ より少し低い高さにする。

アタッチメントの背面に向かってトラクターを前進させる。

注意 この場合、アタッチメントに対しリフトアーム（スナップヒッチ）が斜めにならないように注意してください。

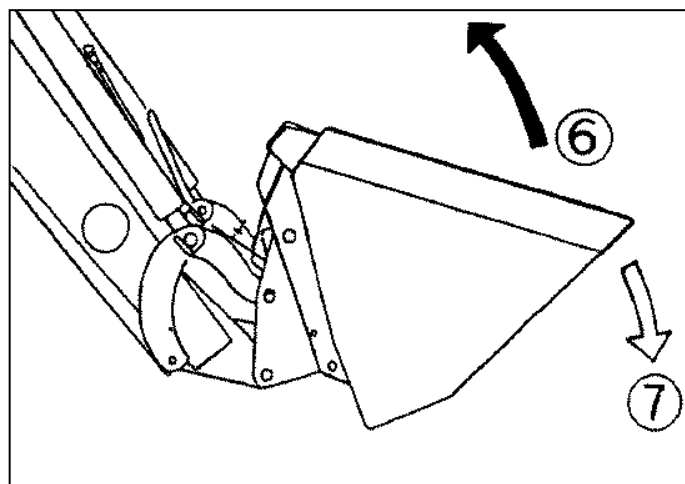


スナップヒッチ先端をアタッチメントの取付部 ④ に引っ掛け、操作レバーを「上昇」にしてアタッチメントを地面から離す。

操作レバーを「スクイ」にし、スナップヒッチをすくいきる。
（最大スクイまで操作する）

すくいきった後操作レバーを「ダンプ」にして、アタッチメントを少しダンプさせる。

アタッチ止めピンを差し込む。



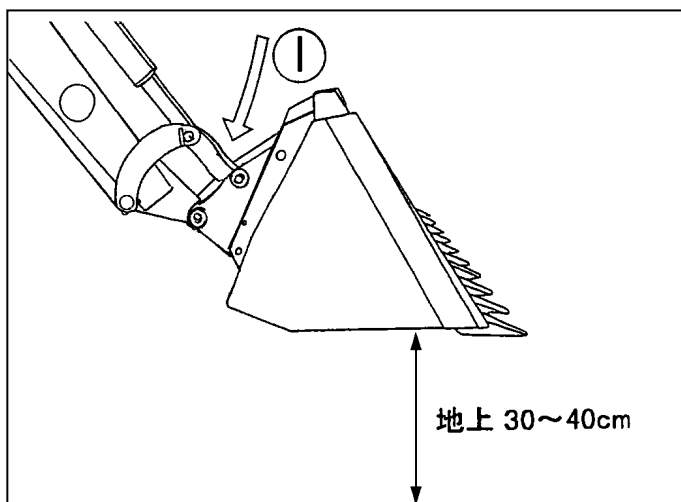
以上で、取付完了です。

取りはずし

バケット底面を水平にし、地上 30～40 cm の高さにする。

アタッチ止めピンを抜く。(左右とも)

操作レバーを「上昇」にして、アタッチメントをボンネットの高さ位まで上げる。

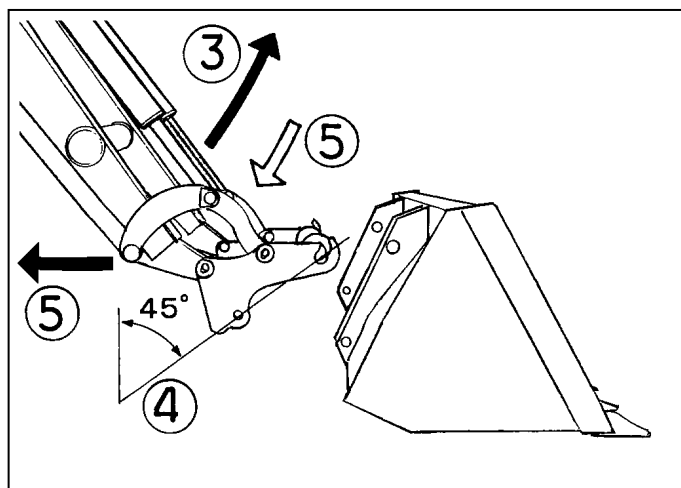


操作レバーを「ダンプ」にして、スナップヒッチを垂直から 45° 前傾状態にする。

取扱注意

スナップヒッチが引っかかったまま、むりやりにはずさないでください。

【守らないと】
バケットが破損するおそれがあります。



操作レバーを「下降」にしながら、トラクターをゆっくり後退させる。

以上で、取りはずし完了です。

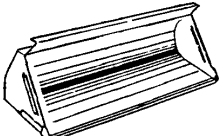
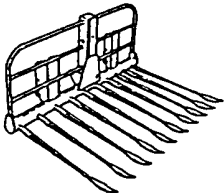
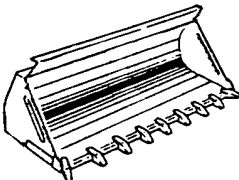
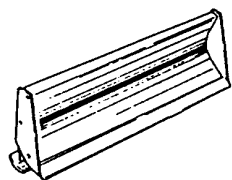
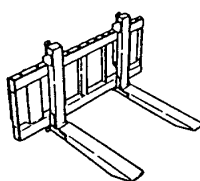
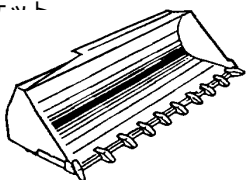
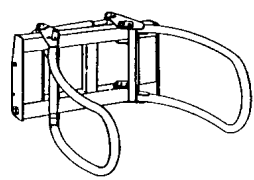
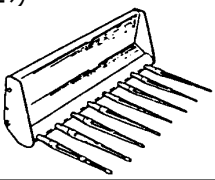
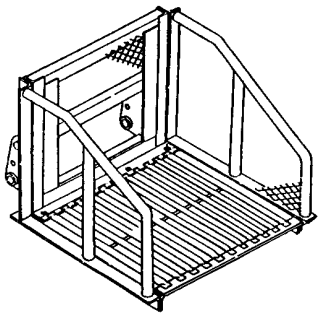
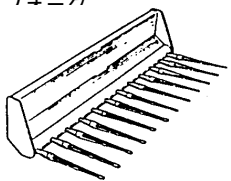
アタッチメントの紹介



注意

下記のアタッチメントをそれぞれの使用目的以外の作業に使用したり改造したりしないでください。
【守らないと】傷害事故や、ローダやアタッチメントの破損につながるおそれがあります。

- アタッチメントをお選びになる時は、使用目的・トラクターの形式・ローダの形式などを確認した上、最寄りの「特販店」・「JA」（農協）までお問い合わせください。

バケット  使用目的 土砂・泥・雪・バラ もの等の収集・運搬。 除雪。	ヘイフォーク  使用目的 牧草・稲ワラの 収集・運搬。
爪付バケット  使用目的 土砂・泥・雪・堆肥 の収集・運搬。	グレーダ  使用目的 除雪・整地・糞 等の収集・排出
広幅バケット・大容量バケット  使用目的 糞・もみがら・おが くず等の収集・運搬。 除雪。	パレットフォーク  使用目的 箱物・パレット等の 運搬。（簡易フォーク リフト作業）
広幅爪付バケット  使用目的 農用の軽掘削。 土砂・泥・雪・堆肥 の収集・運搬。	ロールグラブ  使用目的 ロールベールの 運搬。
マニアフォーク  使用目的 堆肥の切り返し・ 運搬。	コンテナバケット  使用目的 野菜コンテナ ・箱者の運搬。
広幅マニアフォーク  使用目的 堆肥の切り返し・ 運搬。	

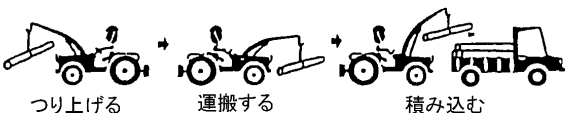
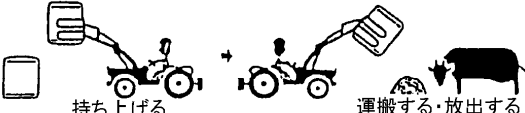
上記以外にもアタッチメントを豊富に揃えています。（この場合、特別注文となります。）
アタッチメントは改良のため予告なく変更することがあります。
ローダ機種により、一部規格していないアタッチメントもありますので、御了承ください。

ローダ作業のしかた

⚠ 注意

下記のアタッチメントをそれぞれの使用目的以外の作業に使用したり改造したりしないでください。
【守らないと】傷害事故や、ローダやアタッチメントの破損につながるおそれがあります。

- 下表に従って使用目的に合ったアタッチメントを選び、「複動」または「フローティング」の位置を設定してください。

使用目的	選択	作業内容	適用アタッチメント
・土砂の収集 ・堆肥の収集 ・糞の収集 ・除雪	フローティング	 すくい取る 運搬する 積み込む	バケット(土砂・糞・雪) マニアフォーフ(堆肥)
・牧草の収集 ・稲ワラの収集 ・残幹の収集	フローティング	 収集する 運搬する 積み込む	マニアフォーク ヘイフォーク
野菜コンテナ・箱物 ・パレットの運搬	フローティング	 持ち上げる 運搬する 降ろす	パレットフォーク コンテナバケット
堆肥の切り返し	フローティング	 すくい取る 持ち上げて放出する	マニアフォーク バケット
・材木・土管・パイプ の運搬 ・抜根	フローティング	 つり上げる 運搬する 積み込む	ローディングフック
ロールバールの運搬	フローティング	 持ち上げる 運搬する・放出する	ロールグラブ ローリングリフト バールフォーク
・除雪 ・排土	フローティング	 押しのける	グレーダ アングルグレーダ バケット
牧草の抑え込み ・加圧	複動	 抑え込む	マニアフォーク ヘイフォーク
・整地 ・糞の収集・排出	複動	 押しよせる 均平にする	グレーダ アングルグレーダ バケット
・穴掘り ・溝掘り ・農用の軽掘削	複動	 掘削する	バケット 爪付バケット

平行リンク付ローダの作動上の注意点

平行リンク付ローダは、平行リンクなしローダと比べ多少異なる作動をしますが(下記)、これは構造上または物理的にやむを得ない作動であり異常ではありません。
この場合、下記に従って適切な処理をした後、ローダ作業を行なってください。

- (1) アタッチメントを最大「ダンプ」にした状態でアームを「上昇」させた後、「スクイ」にすると、アームが少し上昇します。
- (2) アタッチメントを最大「スクイ」にした状態でアームを「下降」にさせた後、「ダンプ」にすると、アームが少し下降することがあります。
- (3) アタッチメントを最大「スクイ」にした後も「スクイ」にしていると、アームが上昇することがあります。その後、アタッチメントを「ダンプ」にすると、元の高さまでアームが下降することがあります。
これは、リフトシリンダ内に油が充満していないために起こる現象であり、完全に「スクイ」きたらそれ以上「スクイ」の操作を行なわないで下さい。
また、アーム下降時にはエンジン回転数を上げて(アクセルを踏んで)、シリンダ内に油を充満させるようにしてください。
- (4) 操作レバーを「フローティング」にしてアームを「下降」させた後、最大「スクイ」後も「スクイ」操作を続けると、アームが上昇することがあります。
- (5) 操作レバーを「フローティング」にしてアームを「下降」させた後、最大「ダンプ」後も「ダンプ」操作を続けると、アームが「下降」します。
(リフトシリンダが最も縮まる状態になるまで、トラクタを持ち上げようとして)

始業・保守点検一覧表



- 点検を行なう時は、ローダやトラクタを平らな場所に置き、ローダを接地（または離脱）させ、エンジンを止めて駐車ブレーキをかけてから始めてください。
 - ローダやトラクタを安全に使用し、かつ長持ちさせるために下表に従って始業点検・保守点検を行なってください。
- 【守らないと】死傷事故につながるおそれがあります。

点 検 項 目	処 置	点検時間
各部のボルト・ナットのゆるみ （目視点検）	目視でゆるんでいたら（バネ座金が取付部から浮いている場合）増締めする。ゆるみが多発する場合は、ボルト・ナット・バネ座金を交換する。 （適正締付トルクは 40 ページ参照）	日常点検 （使用前）
各部のピン・回転部のグリス・油の確認	グリスアップ・給油する。また、ピンなどの脱落があれば補給する。	
油圧作動油の油量劣化確認	適正量まで補給する。また、汚れがひどい場合は油を交換する。（適正追加油量は「組付要領書」参照）	
シリンダからの油もれ・保持 （キープ）不良	シリンダを分解点検する。 パッキンを交換する。 シリンダロッドにキズのある場合、修理または交換する。 ネジ部にゆるみが発生していないか点検する。	
ホースの無理な曲げ・ねじれの確認	ホース両端の金具をゆるめ、無理な曲げ。ねじれがない状態にして締め直す。 ホースは 2 年毎に交換する。	
ホース表面のキズ	キズがある場合、至急交換する。	
その他、破損箇所の有無	破損箇所があれば、修理または交換する。	
前部・前輪ウエイトの取りはずし	ローダ作業時には、必ず取りはずすこと。	
後部ウエイトの取付け	ローダ作業時には、必ず取付けること。 適正後部ウエイト量は「純正部品表」参照	
ホース・油圧部品からの油もれ	増締めする。またはパッキンを交換する。	
前輪空気圧の確認	プレッシャーゲージで測定し、前輪荷重に見合う空気圧にする。（ただし、許容最高圧以下）	

点 検 項 目	処 置	点検時間
レバー・ケーブル回り等への給油	油を給油する。	25 時間 使用毎
各部のボルト・ブッシュの 摩耗量	ピン外径の摩耗量が 2 mm 以上であれば交換する。	50 時間 使用毎
各部のボルト・ナットのゆるみ	増締めする。ゆるみが発生する場合は、ボルト・ナット・バネ座金を交換する。 (適正締め付トルクは次ページ参照)	初回 5 時間 使用後 その後 50 時間 使用毎
シリンダパッキン・バルブパッキンの劣化	定期的に点検し、パッキンにひび・割れ・変形等の劣化があれば交換する。	1000 時間 (又は 2 年) 使用毎

適正締付トルク表

ローダの組付・点検・修理などを行う場合、ボルト・ナットは規定の締付トルクで締付けてください。

(下表・単位は kgf・cm)

ネジの 呼び径 (mm)	ボルトの 強度区分	並目ネジ			細目ネジ		
		ピッチ (mm)	締付トルク		ピッチ (mm)	締付トルク	
			基準値	許容差		基準値	許容差
4	4 T 4.8	0.7	18	± 3			
	7 T 8 T 8.8		32	± 5			
	10 T 11 T		43	± 7			
5	4 T 4.8	0.8	35	± 6			
	7 T 8 T 8.8		60	± 10			
	10 T 11 T		82	± 14			
6	4 T 4.8	1.0	60	± 10			
	7 T 8 T 8.8		100	± 15			
	10 T 11 T		140	± 20			
8	4 T 4.8	1.25	150	± 20	1.0	180	± 25
	7 T 8 T 8.8		260	± 30		310	± 40
	10 T 11 T		330	± 40		360	± 50
10	4 T 4.8	1.5	300	± 40	1.25	330	± 40
	7 T 8 T 8.8		510	± 60		570	± 70
	10 T 11 T		630	± 80		670	± 80
12	4 T 4.8	1.75	430	± 50	1.25	500	± 60
	7 T 8 T 8.8		760	± 90		860	± 100
	10 T 11 T		1060	± 120		1150	± 140
14	4 T 4.8	2.0	730	± 90	1.5	800	± 190
	7 T 8 T 8.8		1200	± 140		1700	± 160
	10 T 11 T		1600	± 180		1050	± 200
16	4 T 4.8	2.0	1000	± 120	1.5	1050	± 120
	7 T 8 T 8.8		1700	± 180		1780	± 180
	10 T 11 T		2350	± 250		2500	± 250
18	4 T 4.8	2.0	1300	± 140	1.5	1500	± 160
	7 T 8 T 8.8		2200	± 200		2600	± 250
	10 T 11 T		3100	± 300		3400	± 350
20	4 T 4.8	2.5	1650	± 180	1.5	1950	± 200
	7 T 8 T 8.8		2700	± 250		3100	± 300
	10 T 11 T		4100	± 400		4500	± 450

【参 考】ボルトの強度区分に対する適用材料の例を下表に示します。

ボルトの強度区分	適 用 材 料
4 T 4 . 8	SS400 , SGD400-D , S20C , SWRM12
7 T 8 T 8 . 8	S45C
10 T 11 T	SCM435

トラブルシューティング

万一、ローダの調子がおかしい・具合が悪いなどの場合には、次ページにより点検し、適切な処置をしてください。

また、ローダの不具合原因の中には、トラクター側のバルブ・ポンプなど油圧部品の不具合に起因する場合も考えられますので、トラクターもあわせて点検・確認してください。

1 点検を行なう前に



- ローダを接地させて駐車ブレーキをかけ、エンジンを止めてください。
- エンジンをかけて点検・修理する必要がある場合、ローダの作業範囲内には入らないでください。
- ローダの下に入らないでください。

【守らないと】

ローダに当たったり、ローダの下敷きになって、死傷するおそれがあります。

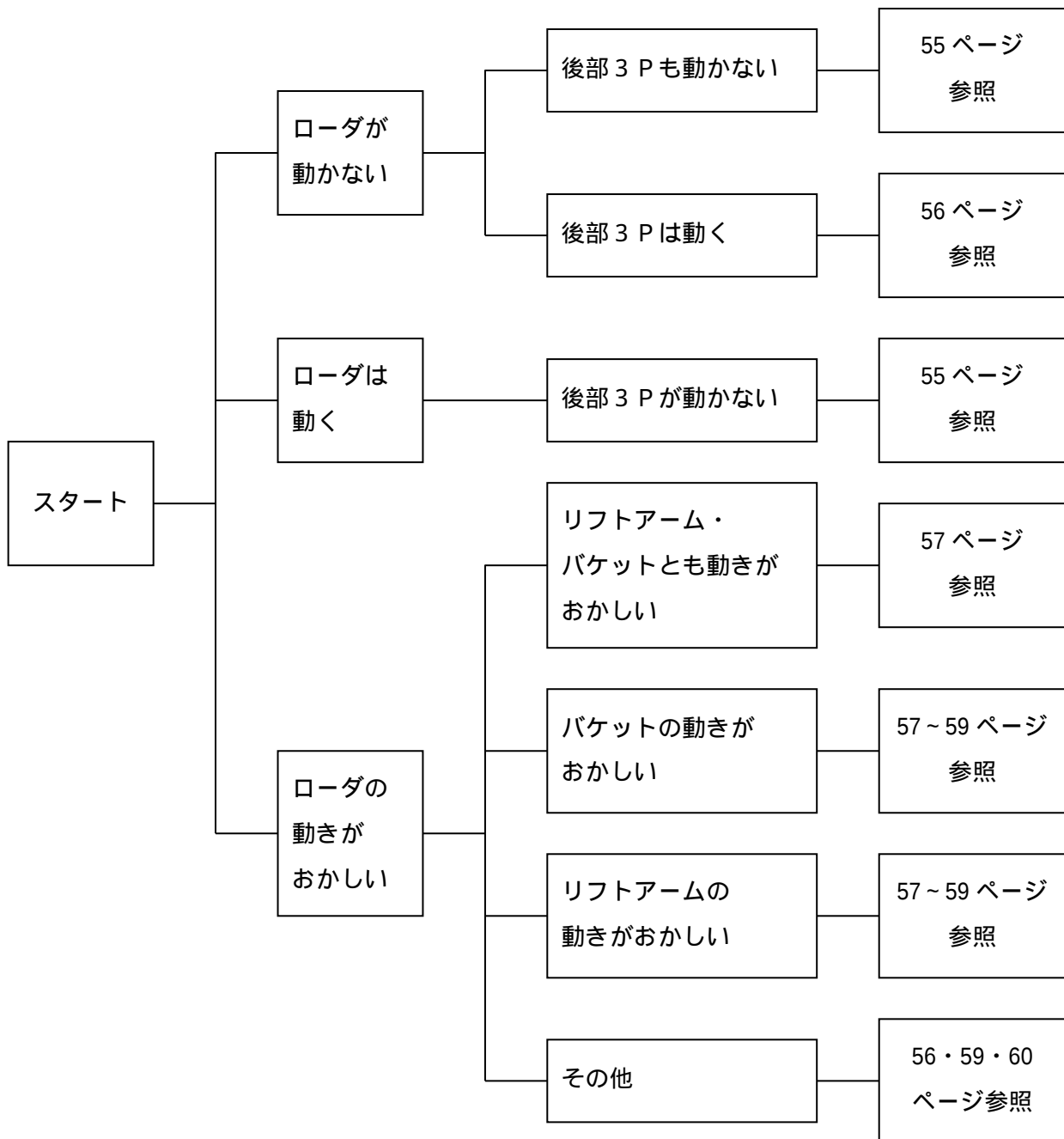
2 点検中の注意

- ローダやトラクターの型式・及び機番を確認し、不具合の内容を詳細にメモしてください。（後で連絡するときに便利です）
- 作動不良・作動不具合は大半が配管間違いや配線間違いによるものです。今一度、取扱説明書・純正部品表・組付要領書をよく読んでいただき十分確認してください。
- ローダ機種・トラクター機種により、同じ不具合でも処置が異なる場合もありますので、十分注意・確認してください。

3 点検後

- 点検・処置しても 原因がわからない、正常にならない場合は、本製品お買い上げの「特販店」「J A」（農協）またはサービス工場までお問い合わせください。
- 油圧部品、特にバルブ等は精密機械ですので、分解・修理は専門の技術サービスマンにお任せください。

油圧編



症 状	原 因	処 置
ローダ・後部３Ｐ ともに動かない	㊥（IN）と㊦（OUT）ポートの配管が逆になっている	純正部品表・組付要領書通り正しく配管してください
	作動油が不足している（ポンプより異常音がする）	作動油を追加してください 追加油量は組付要領書を参照してください
	オイルフィルターの目づまり	フィルターを洗浄・または交換してください
	ポンプ故障 （油を送らない）	トラクターを修理に出してください またはポンプを交換してください
	メインリリーフバルブ整備不良	内部洗浄後、圧力計にて圧力を再セットしてください
	カプラが接続されていない	カプラを接続してください
	カプラの故障（この場合、レバー操作時、リリーフ音がする）	カプラのパッキンを交換してください またはカプラを修理に出してください
	油圧取出口を間違えている	純正部品表・組付要領書通り正しく配管してください
ローダは動くが 後部３Ｐは動かない （または後部作業機 が落下する）	㊦（OUT）と㊨ポートの配管が逆になっている	純正部品表・組付要領書通り正しく配管してください
	トラクターの落下調整弁不良	トラクターを修理に出してください または落下調整弁を交換してください
	落下調整弁グリップが締まって（閉じて）いる	グリップをゆるめて（開いて）ください

症 状	原 因	処 置
後部 3 P は動くが ローダは動かない	油圧取出口を間違えている	純正部品表・組付要領書通り正しく配管してください
	㊥ (IN) と㊦ (OUT) ポートの配管が逆になっている	純正部品表・組付要領書通り正しく配管してください
	カプラが接続されていない	カプラを接続してください
	カプラの故障 (この場合、レバー操作時、リリース音が出る)	カプラのパッキンを交換してください またはカプラを修理に出してください
ローダが動かない (または動きがおかしい) リリース音が出る	操作レバーのリンクがガタついている	純正部品表・組付要領書通り正しく配管してください
	プッシュプルケーブルの調整不良	純正部品表・組付要領書通り正しく配管してください
油温が上昇しやすい 油温が異常に上昇する	積荷オーバーでリリースが頻繁に働く	制限重量以下で作業してください 荒い運転をしないでください

症 状	原 因	処 置
ローダを動かすと 「ギー」と音がする	ピン部グリスが切れている	グリスアップしてください
油圧部分からの油もれ (外部)	パッキンの摩耗 または劣化	修理に出してください(パッキン交換)
継手・ネジ部・ホースよりの油もれ	ネジがゆるんでいる	継手を締め直してください
	オーリングの損傷 または劣化	オーリングを交換し(部品注文)、継手を締め直してください
ぎくしゃくする 途中で止まる 動きがおそい 異音がする	シリンダ内に空気が入っている	空気が抜けるまで、空荷作動させてください
	作動油が不足している	作動油を追加してください。追加油量は組付要領書を参照してください
	オイルフィルターの目づまり	フィルターを洗浄・または交換してください
動きがめちゃくちゃ (操作ラベルの通りに動かない)	シリンダ・バルブ間のカプ ラまたはホースの接続が間違っている	純正部品表・組付要領書通り正しく配管してください
積荷するとバケット がすくえない またはスクイ速度が 遅い	ダンプシリンダ内のパッキ ン損傷 または劣化	パッキンを交換してください。(部品注文) またはシリンダを修理に出してください
ダンプするがスクイ できない	ダンプシリンダ内のパッキ ン損傷または劣化	パッキンを交換してください。(部品注文) またはシリンダを修理に出してください
	ダンプシリンダ左右の配管 が逆になっている	純正部品表・組付要領書通り正しく配管してください
自然にダンプする (スクイ側・ダンプ 側のカプラまたはホ ースを差し換えると 止まる場合)	ローダバルブのキープ性能 不良(一般にこの現象は 徐々に発生します)	修理に出してください
自然にダンプする (スクイ側・ダンプ 側のカプラまたはホ ースを差し換えても 止まらない場合)	ダンプシリンダのキープ性 能不良(一般にこの現象は 急に発生します)	修理に出してください

症 状	原 因	処 置
リフトアーム上昇時 (バケットのスクイ 時)に一度下がって から上昇(スクイ) する	ロードバルブのロードチェ ック不良	ロードチェックプラグをはずし、異物の有 無の確認をしてください プラグ穴およびポペットを洗浄してくだ さい 上記 の処理では正常にならない場合 は修理に出してください
ダンプシリンダが伸 びきって縮まない	㊸(IN)と㊹(OUT)ポー トの配管が逆になっている	純正部品表・組付要領書通り正しく配管し てください
	ダンプシリンダ左右の連結 ホースを逆につないでいる	純正部品表・組付要領書通り正しく配管し てください
バケットがダンプ途 中で止まり、また動 く 接地させるとバケッ トがぶらぶらする	エンジン回転数が低いため ダンプシリンダ内が真空に なっている	エンジン回転数を上げてダンプしてくださ い
	作動油が不足している	作動油を追加してください 追加油量は組付要領書を参照してください
上昇・下降ともしな い	配管間違い	純正部品表・組付要領書通り正しく配管し てください
	ストップバルブ(上昇側) が「閉」になっている	ストップバルブを「開」にしてください
上昇しない (リリース音なし)	配管間違い	純正部品表・組付要領書通り正しく配管し てください
	作動油が不足している	作動油を追加してください 追加量は組付要領書を参照してください
	トラクターのポンプ故障 (油を送らない)	修理に出してください または交換してください
	バルブのスプールが働いて いない (例:凍結・ハイドロリッ クロック・さび等による場 合)	注油してください 熱湯をかけてください
上昇しない (リリース音あり) または上昇が遅い	積荷オーバー	制限重量内で作業してください
	配管間違い	純正部品表・組付要領書通り正しく配管し てください

症 状	原 因	処 置
上昇しない (リリーフ音あり) または上昇が遅い	カブラが接続されていない またはカブラの故障	カブラを接続してください またはカブラを交換してください
下降しない または下降が遅い	作動油の粘度が高い (特に寒冷地での現象)	油温を 30 以上になるまでエンジンをかけ、ウォーミングアップさせてください
	リフトシリンダ左右の配管が逆になっている (この場合、リフトアームがねじれて上昇します)	純正部品表・組付要領書通り正しく配管してください
	カブラが接続されていない またはカブラの故障	カブラを接続してください またはカブラを交換してください
リフトアームが自然に下がる	ローダバルブのキープ性能不良	修理に出してください
	リフトシリンダのキープ性能不良	修理に出してください
トラクターの前輪が持ち上がらない	操作レバーが「フローティング」位置になっている	操作レバーを「フローティング」以外の位置にしてください
	駐車ブレーキがかかっている	駐車ブレーキをはずしてください
	後部ウエイトを付けていない 前部前輪ウエイトを付けている	後部ウエイトを付けてください 前部ウエイトをはずしてください

症 状	原 因	処 置
カブラが結合できない	回路内に残圧がかかっている	残圧を抜いてください
前進排土時、バケットがダンプになってしまう	ポートリリーフ（スクイ側）が働いている	異常ではありません
後進排土時、バケットがスクイになってしまう	ポートリリーフ（ダンプ側）が働いている	異常ではありません
積荷時、リフトアームが少し下がる	ポートリリーフ（上昇側）が働いている	異常ではありません
ヘイフォーク・マニアフォークが早くいたむ または集草作業がうまくできない	複動のまま作業している	操作レバーを「フローティング」の位置にしてください
積荷が上がらない または上昇途中で止まる	積荷オーバー	制限重量以下で作業してください
	リフトシリンダ内のパッキン摩耗	パッキンを交換してください（部品注文） またはシリンダを修理に出してください
	トラクターポンプの故障（油を送らない）	修理に出してください または交換してください
	オイルフィルターの目づまり	フィルターを洗浄・または交換してください
	作動油の汚れ・量不足	作動油を交換・または追加してください 追加油量は組付要領書を参照してください
	トラクターポジションコントロールバルブの故障（油圧取出部に圧力計を付けて、圧力を測定してください）	コントロールバルブを修理・または交換してください 注意 3点リンクに重い作業機をつけている場合は、 ポジションコントロールレバーを最上位にし、 落下調整グリップを締め込んで、 ポジションコントロールレバーを下げてください

労働安全衛生規則の抜粋

（特別教育を必要とする業務）

第36条 法第59条第3項の厚生労働省令で定める危険又は有害な業務は、次のとおりとする。

5の2 最大荷重1トン未満のショベルローダー又はフォークローダーの運転（道路上を走行させる運転を除く。）の業務

（制限速度）

第151条の5 事業者は、車両系荷役運搬機械等（最高速度が毎時10キロメートル以下のものを除く。）を用いて作業を行うときは、あらかじめ、当該作業に係る場所の地形、地盤の状態等に応じた車両系荷役運搬機械等の適正な制限速度を定め、それにより作業を行わなければならない。

2 前項の車両系荷役運搬機械等の運転者は、同項の制限速度を超えて車両系荷役運搬機械等を運転してはならない。

（転落等の防止）

第151条の6 事業者は、車両系荷役運搬機械等を用いて作業を行うときは、車両系荷役運搬機械等の転倒又は転落による労働者の危険を防止するため、当該車両系荷役運搬機械等の運行経路について必要な幅員を保持すること、地盤の不同沈下を防止すること、路肩の崩壊を防止すること等必要な措置を講じなければならない。

2 事業者は、路肩、傾斜地等で車両系荷役運搬機械等を用いて作業を行う場合において、当該車両系荷役運搬機械等の転倒又は転落により労働者に危険が生ずるおそれのあるときは、誘導者を配置し、その者に当該車両系荷役運搬機械等を誘導させなければならない。

3 前項の車両系荷役運搬機械等の運転者は、同項の誘導者が行う誘導に従わなければならない。

（接触の防止）

第151条の7 事業者は、車両系荷役運搬機械等を用いて作業を行うときは、運転中の車両系荷役運搬機械等又はその荷に接触することにより労働者に危険が生ずるおそれのある箇所に労働者を立ち入らせてはならない。ただし、誘導者を配置し、その者に当該車両系荷役運搬機械等を誘導させるときは、この限りでない。

2 前項の車両系荷役運搬機械等の運転者は、同項ただし書の誘導者が行う誘導に従わなければならない。

（合図）

第151条の8 事業者は、車両系荷役運搬機械等について誘導者を置くときは、一定の合図を定め、誘導者に当該合図を行わせなければならない。

2 前項の車両系荷役運搬機械等の運転者は、同項の合図に従わなければならない。

（立入禁止）

第151条の9 事業者は、車両系荷役運搬機械等（構造上、フォーク、ショベル、アーム等が不意に降下することを防止する装置が組み込まれているものを除く。）については、そのフォーク、ショベル、アーム等又はこれらにより支持されている荷の下に労働者を立ち入らせてはならない。ただし、修理、点検等の作業を行う場合において、フォーク、ショベル、アーム等が不意に降下することによる労働者の危険を防止するため、当該作業に従事する労働者に安全支柱、安全ブロック等を使用させるときは、この限りでない。

2 前項ただし書の作業を行う労働者は、同項ただし書の安全支柱、安全ブロック等を使用しなければならない。

（荷の積載）

第151条の10 事業者は、車両系荷役運搬機械等に荷を積載するときは、次に定めるところによらなければならない。

偏荷重が生じないように積載すること
不整地運搬車、構内運搬車又は貨物自動車にあっては、荷崩れ又は荷の落下による労働者の危険を防止するため、荷にロープ又はシートを掛ける等必要な措置を講ずること。

（運転位置から離れる場合の措置）

第151条の11 事業者は、車両系荷役運搬機械等の運転者が運転位置から離れるときは、当該運転者に次の措置を講じさせなければならない。

フォーク、ショベル等の荷役装置を最低降下位置に置くこと。
原動機を止め、かつ、停止の状態を保持するためのブレーキを確実にかける等の車両系荷役運搬機械等の逸走を防止する措置を講ずること。

2 前項の運転者は、車両系荷役運搬機械等の運転位置から離れるときは、同項各号に掲げる措置を講じなければならない。

（車両系荷役運搬機械等の移送）

第151条の12 事業者は、車両系荷役運搬機械等を移送するため自走又はけん引により貨物自動車に積卸しを行う場合において、道板、盛土等を使用するときは、当該車両系荷役運搬機械等の転倒、転落等による危険を防止するため、次に定めるところによらなければならない。

積卸しは、平たんで堅固な場所において行うこと。
道板を使用するときは、十分な長さ、幅及び強度を有する道板を用い、適当なこう配で確実に取り付けること。
盛土、仮設台等を使用するときは、十分な幅及び強度並びに適当なこう配を確保すること。

（搭乗の制限）

第151条の13 事業者は、車両系荷役運搬機械等（不整地運搬車及び貨物自動車を除く。）を用いて作業を行うときは、乗車席以外の箇所に労働者を乗せてはならない。ただし、墜落による労働者の危険を防止するための措置を講じたときは、この限りでない。

（主たる用途以外の使用の制限）

第151条の14 事業者は、車両系荷役運搬機械等を荷のつり上げ、労働者の昇降等当該車両系荷役運搬機械等の主たる用途以外の用途に使用してはならない。ただし、労働者に危険を及ぼすおそれのないときは、この限りでない。

（修理等）

第151条の15 事業者は、車両系荷役運搬機械等の修理又はアタッチメントの装着若しくは取外し作業を行うときは、当該作業を指揮する者を定め、その者に次の事項を行わせなければならない。

作業手順を決定し、作業を直接指揮すること。

第151条の9第1項ただし書に規定する安全支柱、安全ブロック等の使用状況を監視すること。

（前照灯及び後照灯）

第151条の27 事業者は、ショベルローダー又はフォークローダー（以下「ショベルローダー等」という。）については、前照灯及び後照灯を備えたものでなければ使用してはならない。ただし、作業を安全に行うため必要な照度が保持されている場所においては、この限りでない。

(ヘッドガード)

第151条の28 事業者は、ショベルローダー等については、堅固なヘッドガードを備えたものでなければ使用してはならない。ただし、荷の落下によりショベルローダー等の運転者に危険を及ぼすおそれのないときは、この限りでない。

(荷の積載)

第151条の29 事業者は、ショベルローダー等については、運転者の視界を妨げないように荷を積載しなければならない。

(使用の制限)

第151条の30 事業者は、ショベルローダー等については、最大荷重その他の能力を超えて使用してはならない。

(定期自主検査)

第151条の31 事業者は、ショベルローダー等については、一年を超えない期間ごとに一回、定期に、次の事項について自主検査を行わなければならない。ただし、一年を超える期間使用しないショベルローダー等の当該使用しない期間においては、この限りでない。

原動機の異常の有無

動力伝達装置及び走行装置の異常の有無

制動装置及び操縦装置の異常の有無

荷役装置及び油圧装置の異常の有無

電気系統、安全装置及び計器の異常の有無

2 事業者は、前項ただし書のショベルローダー等については、その使用を再び開始する際に、同項各号に掲げる事項について自主検査を行わなければならない。

第151条の32 事業者は、ショベルローダー等については、一月を超えない期間ごとに一回、定期に、次の事項について自主検査を行わなければならない。ただし、一月を超える期間使用しないショベルローダー等の当該使用しない期間においては、この限りでない。

制動装置、クラッチ及び操縦装置の異常の有無

荷役装置及び油圧装置の異常の有無

ヘッドガードの異常の有無

2 事業者は、前項ただし書のショベルローダー等については、その使用を再び開始する際に、同項各号に掲げる事項について自主検査を行わなければならない。

(定期自主検査の記録)

第151条の33 事業者は、前2条の自主検査を行ったときは、次の事項を記録し、これを3年間保存しなければならない。

検査年月日

検査方法

検査箇所

検査の結果

検査を実施した者の氏名

検査の結果に基づいて補修等の措置を講じたときは、その内容

(点検)

第151条の34 事業者は、ショベルローダー等を用いて作業を行うときは、その日の作業を開始する前に、次の事項について点検を行わなければならない。

制動装置及び操縦装置の機能

荷役装置及び油圧装置の機能

車輪の異常の有無

前照灯、後照灯、方向指示器及び警報装置の機能

(補修等)

第151条の35 事業者は、第151条の31若しくは第151条の32の自主検査又は前条の点検を行った場合において、異常を認めたときは、直ちに補修その他必要な措置を講じなければならない。

お問い合わせ先

お住まいの地域の販売会社へお問い合わせください。

ヤンマーアグリジャパン株式会社

本社

〒530-8321 大阪市北区鶴野町1番地9号
梅田ゲートタワー

TEL (06)6376-6345

北海道支社

〒067-0051 北海道江別市工栄町10番地6

TEL (011)381-2300

東北支社

〒984-0011 宮城県仙台市若林区六丁の目西町8番地1
斎喜センタービル 1F

TEL (022)288-8451

関東甲信越支社

〒300-1161 茨城県稲敷郡阿見町よしわら1丁目19番地1

TEL (029)844-9007

中部近畿支社

〒524-0041 滋賀県守山市勝部2丁目3番地9号

TEL (077)582-9300

中四国支社

〒710-0024 岡山県倉敷市亀山622番地

TEL (086)428-5151

九州支社

〒833-0001 福岡県筑後市大字一条535番地2

TEL (0942)53-0333

ヤンマー沖縄株式会社

〒901-2223 沖縄県宜野湾市大山7丁目11番地12号

TEL (098)898-3111

ヤンマーアグリ株式会社

〒702-8515 岡山県岡山市中区江並428番地

お客様相談室
TEL (06)7636-9298

2021年7月1日現在

お客様メモ

購入日	年	月	日
購入店名			